

2025年度

コミュニティ菜園&コンポスト についての意識調査

— 結果サマリー・分析・今後の方向性 —

NPO法人コンポスト東京

2026年3月23日

※本調査は、農水省農山漁村振興交付金（都市農業機能発揮対策）事業として実施されました。

調査概要

コンポスト東京では、都市型のコミュニティ菜園&コンポストを企画・運営できる人材を育成するしくみ作りにとり組んでいる。その方向性を考えていくための基礎資料として、原宿はらっぱファームにおける活動やイベント（コンポスト講座、コンポスト交流会）に参加した方々へのアンケートをベースとする調査を実施した。

本報告書は、その結果をまとめ、分析したものである。

【原宿はらっぱファーム（通称：はらはらファーム）とは？】

2025年4月~2026年1月まで東京都渋谷区原宿の市街地に開設された期間限定のコミュニティ菜園。コンポスト東京も運営に関わった。

都市の空閑地を活用した貴重な循環型菜園として、多くの人に農的体験ができる機会を提供した。

ファームの中心に設置した木製の大型コンポストを使い、堆肥化実証実験（農水省交付金事業）やコンポスト講座、コンポスト交流会を実施。

来場者には、生ごみや地域の有機資源（コーヒーかすなど）の堆肥化、畑作業に参加したり、農作業やコンポストについて学んだり、交流してもらった。



調査の種類

3種類の調査を実施し、のべ177サンプルの回答を得た。



①堆肥化実証実験（コンポスト部）参加者アンケート

家から生ごみを定期的に運んで、ファームのコンポストと一緒に堆肥化するとりくみを「コンポスト部」と名付け、2025年4月～2026年1月まで活動。その参加者に、開始時と終了時の2回アンケートを行った。
サンプル数： 1回目 36件 2回目 28件



②ファーム来場者・イベント参加者アンケート

原宿はらっぱファームへの来場者や近隣地域で実施したコンポスト講座及び交流会への参加者など、単発的に関わった方へのアンケート。（随時）
サンプル数： 90件



③原宿はらっぱファーム活動参加者アンケート

原宿はらっぱファームの畑メンバー（公募）や、イベント運営サポートなど、コミュニティ菜園&コンポストの活動へ定期的に参加した方へのアンケート。活動が終了した1月に実施。
サンプル数： 23件

結果サマリー

- アンケート対象者は、コミュニティ菜園やコンポストの活動に参加したことについて、極めて高い満足度（3種の調査いずれも「大変良かった」「良かった」以上がほぼ100%）を示した。
参加者の多くが「持続可能な暮らしを作ること」「気候変動」「農業の未来」に高い関心を持っている。
活動参加を通じて、有機資源循環が意外に簡単に実践でき、畑で健康な作物が育つ様子が見えることが、高い満足感につながっている。
- 多くの参加者が、同じ関心を持つ人と出会い、交流できたことを、高く評価している。
コミュニティ菜園&コンポストが地域に新たな人的ネットワークを生み出し、精神的なウェルビーイング向上にもつながっていることがわかる。
- 堆肥化実証実験（愛称：コンポスト部）参加経験者の100%が、コミュニティ菜園&コンポストが身近に存在することを望んでいる。
また、コミュニティコンポストを運営できる人材育成講座にも半数以上の人が興味を示している。

調査① 堆肥化実証実験（コンポスト部）参加者アンケート

【堆肥化実証実験】

自宅の生ごみを貯めて、原宿はらっぱファーム内のコンポストと一緒に堆肥化する取り組みの実証実験。「コンポスト部」という愛称をつけ、公募によって43組が参加した。

今後、コミュニティ菜園&コンポストを普及していく中で、参加者が期待することや、対象地域の広さ、自宅での生ごみの保管や運搬方法、参加してからの暮らしの変化、参加者の意識や行動の変容、コンポストマスター育成制度のあり方などを知るために、開始直後と終了時の2回、アンケート調査を行った。

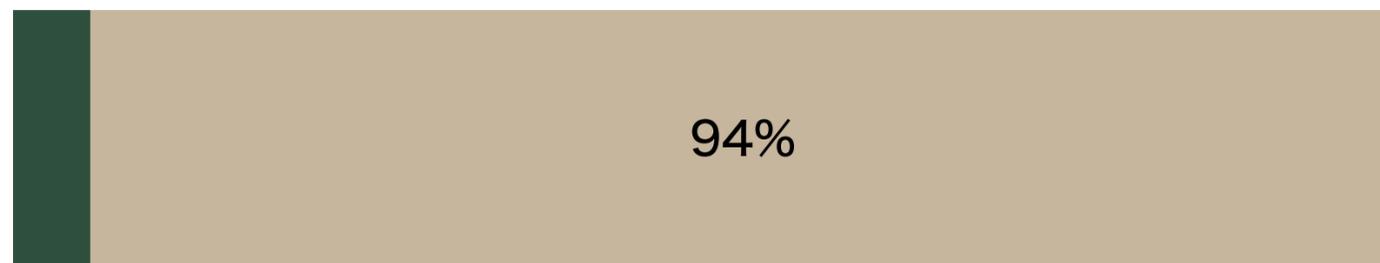


回答者属性

1回目/回答36件

性別

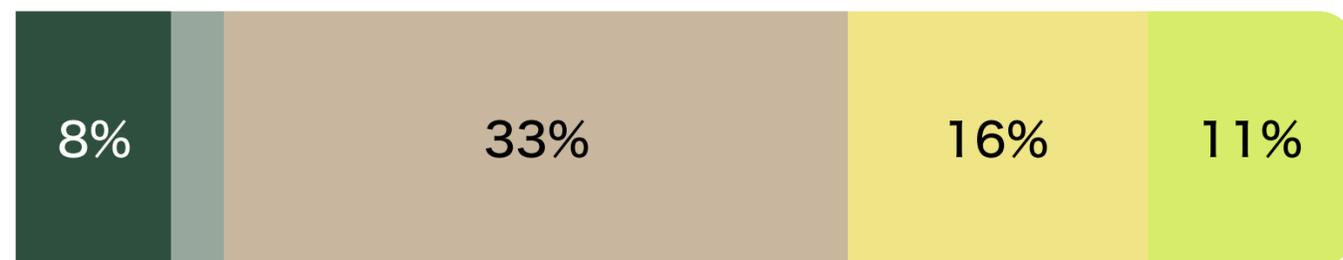
● 男性 ● 女性



男性：2人 | 女性：34人

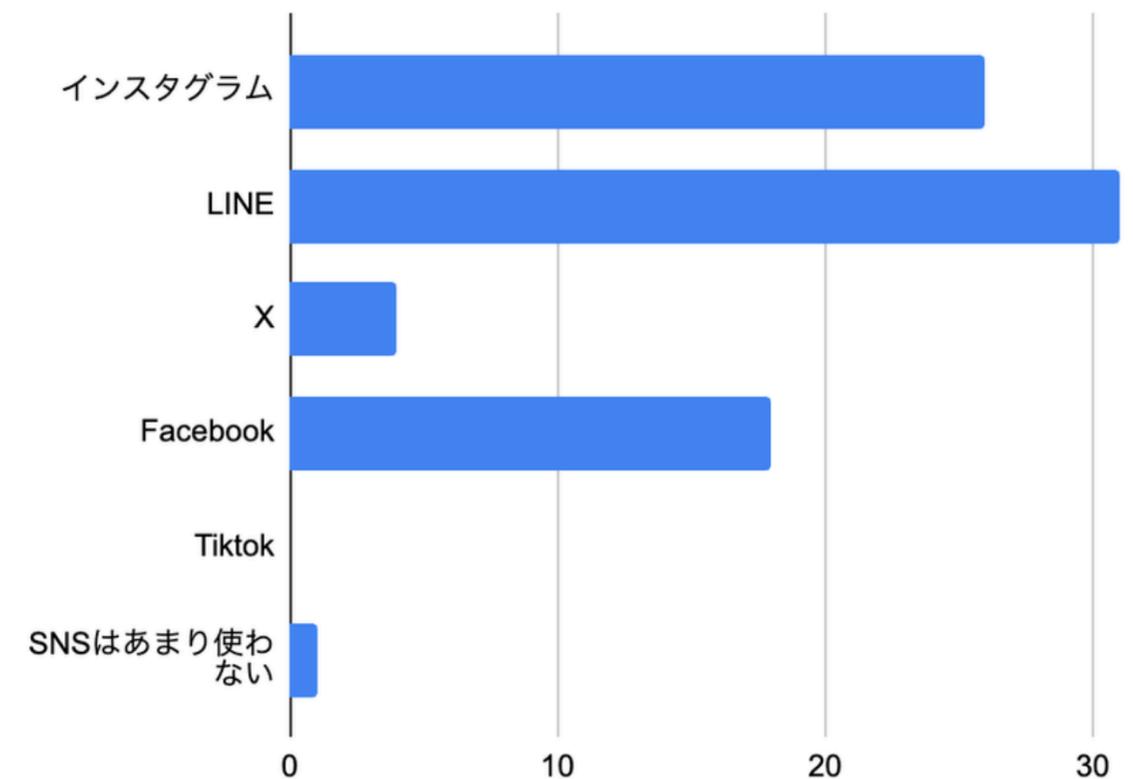
年齢層

● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代以上



20代：3人 | 30代：1人 | 40代：12人 | 50代：16人 | 60代以上：4人

よく使うSNS ※複数回答可

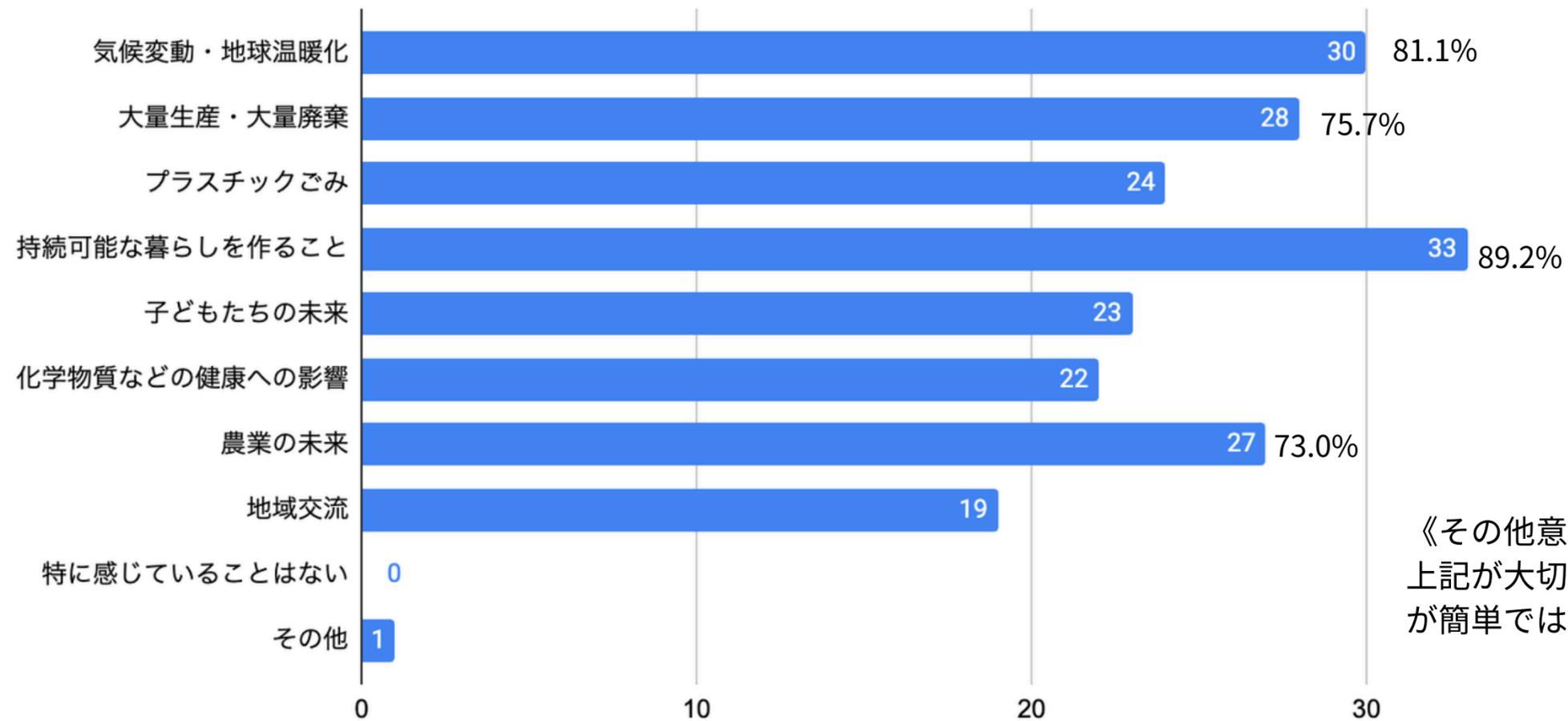


女性40~50代が中心。家庭で生ごみ処理に主に関わっている層が反映されているようである。メンバー間の連絡にはLINEを使用した。

参加者の課題意識

1回目/回答36件

Q. 日頃、どんなことが課題であったり、改善が必要だと感じていますか？ ※複数回答可



《その他意見》

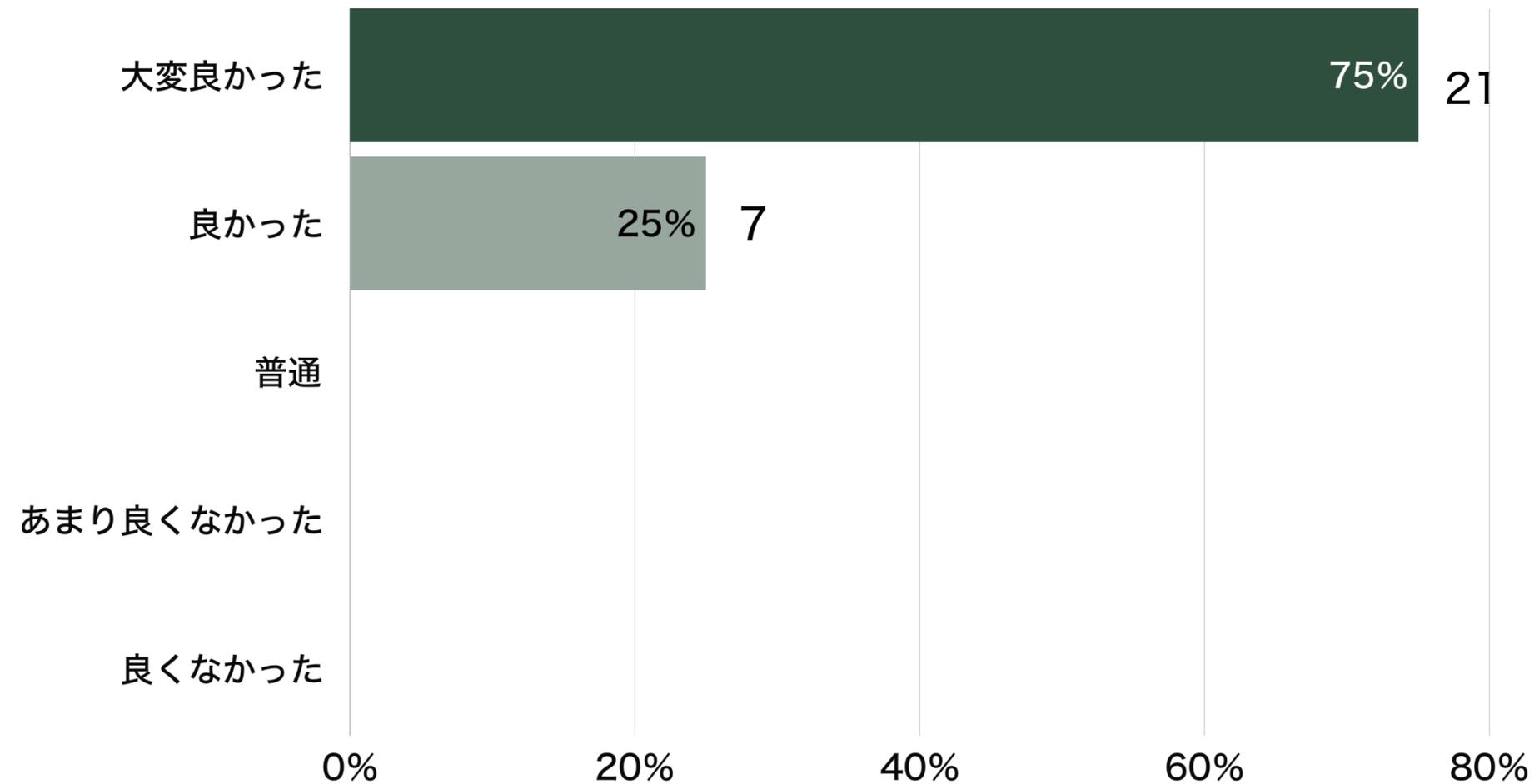
上記が大切な事だと、自分事として広く知ってもらうことが簡単ではないと感じています。

回答者のうち、9割近くが「持続可能な暮らしを作ること」と答え、「気候変動・地球温暖化」「大量生産・大量廃棄」「農業の未来」も7割以上が回答。こうした課題への解決策として、コンポストの実践とそれを通じた農的な地域交流を求めていることが伺える

原宿はらっぱファームのコンポスト部活動への満足度

2回目/回答28件

Q. コンポスト部の活動に参加したことについてどう思ったか？



参加者全員が、「大変良かった」もしくは「良かった」と回答。自宅の生ごみを貯めてコミュニティコンポストで堆肥化し、畑で使われる活動に、高い満足度を示している。

前項の回答の理由 (満足度の背景) ※主なものを抜粋

ゴミが肥料になるプロセスが楽しかったし、何よりゴミの量が激減しました。

一人では続かないけど、仲間と一緒にだと繋がりが楽しくて、自然と続けられたから

原宿のど真ん中で畑作業ができた。生ゴミを捨てない生活が出来た。

くらしの中の循環をリアルに体験できるとてもよい機会でした

初めてでできるか心配でしたが、ハードル感じずにできました！生ゴミを捨てる罪悪感からも解放されました。

微生物の分解力が自宅でのコンポストとは桁違いなパワーな事を知り、地域の皆さんで見守りながら楽しめていた気がして、とても良かったです。

いままで興味はあったけどはじめ方が分からなかった

コミュニティコンポストにとっても興味があったが、取り組んでいるところが周りになかった。親と子ども達で体験できた事をととても感謝しています。

元々自宅でバグ型のコンポストをしていましたが、一人でやるより孤独感がなく一体感や充実感を感じながら活動できました。

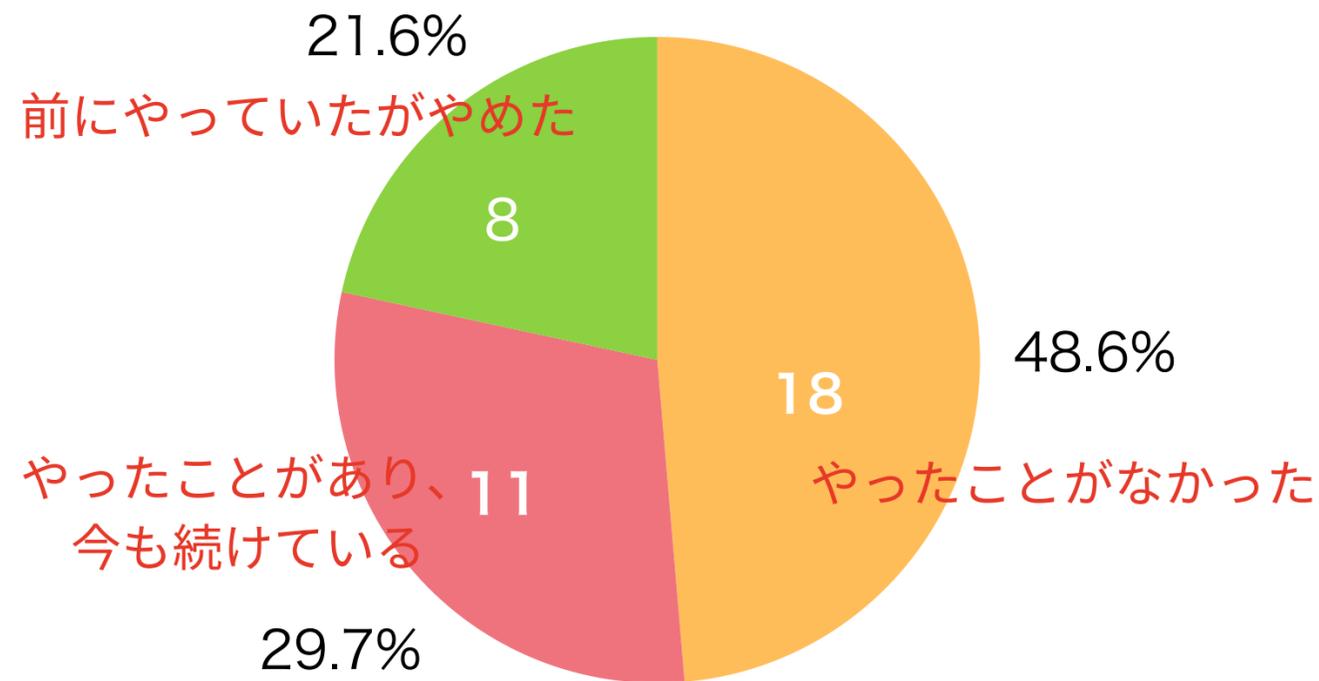
自然の循環に興味を持っている人がたくさんいることがわかって嬉しかった

生ごみがあんなに綺麗にコンポストになったのが感激

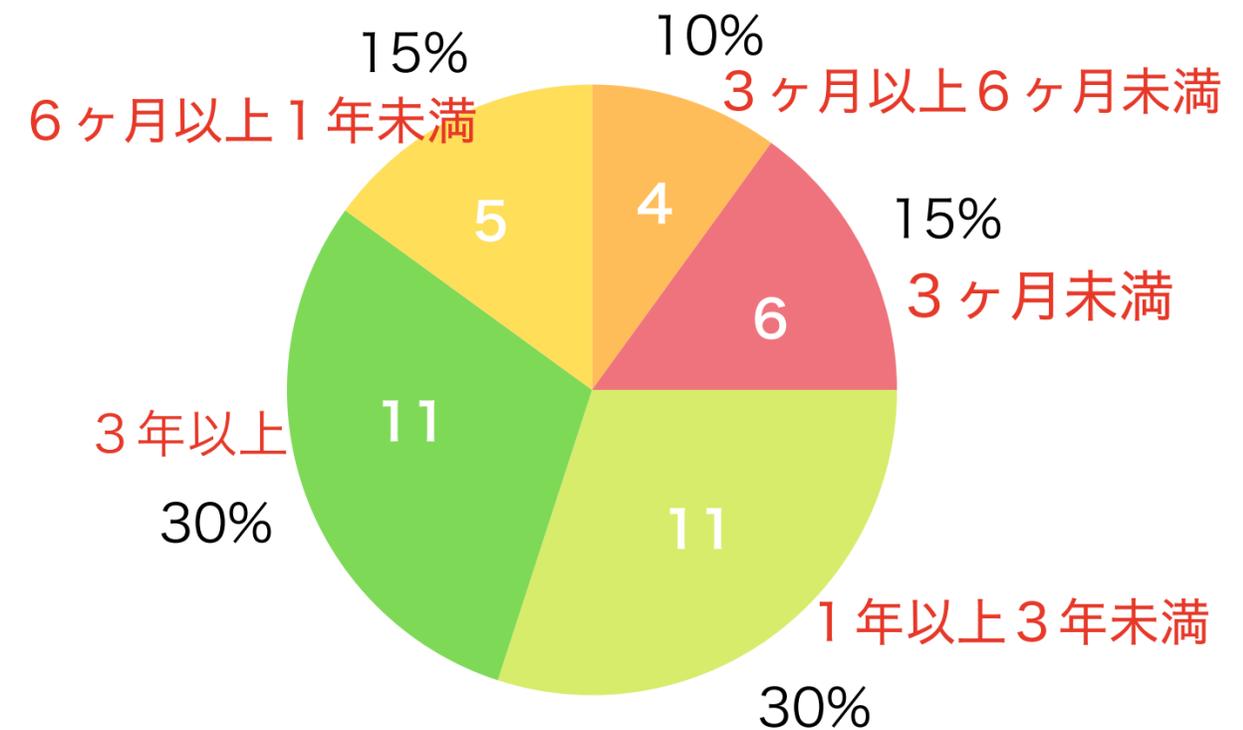
参加前のコンポストの経験の有無・年数

1回目/回答36件

Q 参加前のコンポストのご経験は？



Q コンポストの経験がある方へ⇒何年くらいやった経験がありますか？

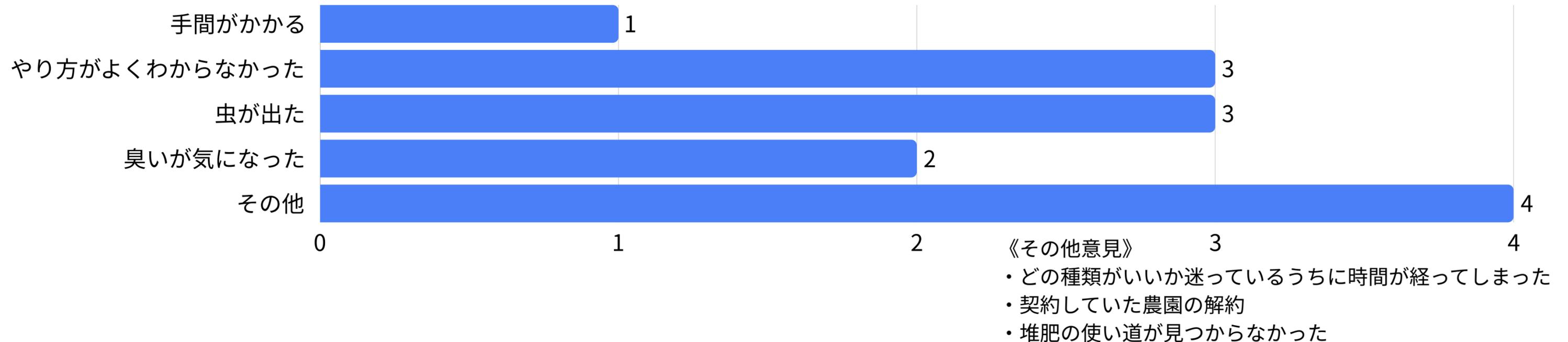


半数近くがコンポスト未経験者。「前にやっていたがやめた」という人も2割で、今回の実験が、コンポストをスタート・再開するきっかけとなっている。
経験者については、1年以上の経験がある人が3分の2で、コンポストについての知識がある程度ある人が多い。

コンポスト継続のハードル

1回目/回答36件

Q コンポストの経験があり、やめたことがある方へ⇒やめた理由はなんですか？ ※複数回答可

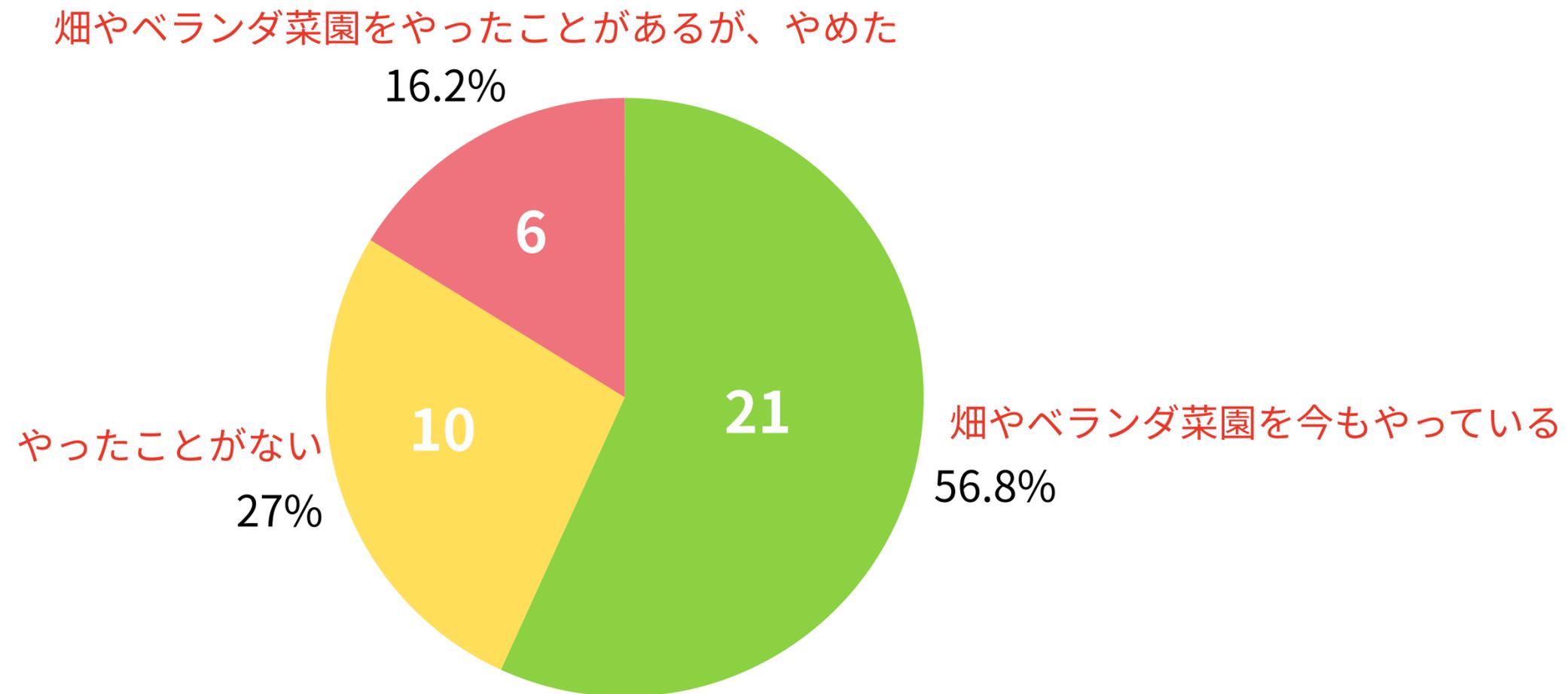


「やり方がよくわからなかった」という方が半数近い。コンポストを購入しても、やり方がわからなくなってつまづく人は多い。また「虫が出た」「臭いが気になった」をあげる人も複数いた。

こうした悩みは、トラブルの種類や対処方法などの知識を事前に得られると解消されることが多く、コンポストについて学ぶ場や情報源（信頼できるウェブサイト）の提供が必要である。

また、今回のコンポスト部のように仲間と一緒にとりくむことで、解消されることが多い。

Q. 参加前の菜園のご経験は？

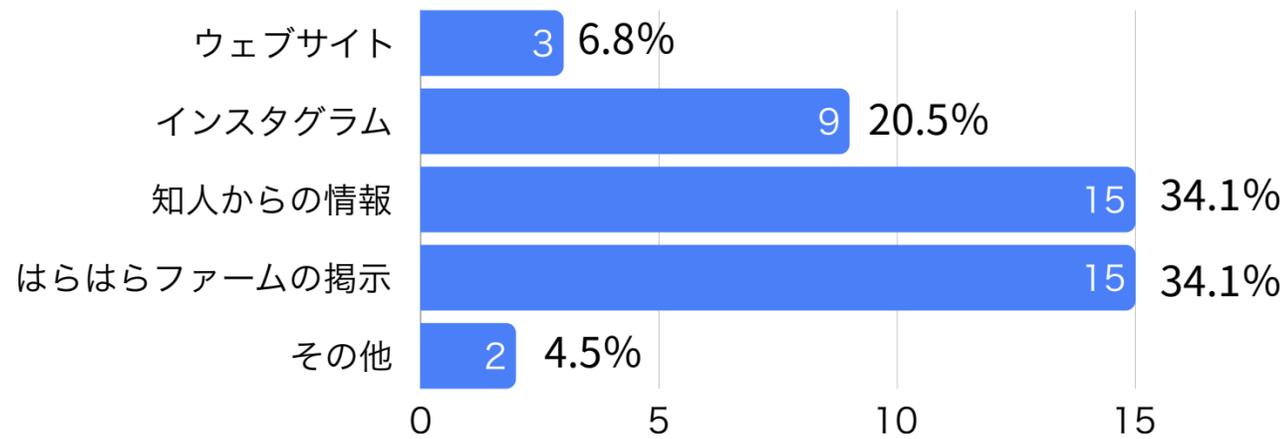


7割以上が畑や菜園の経験者。この層がコンポストへの関心が高いことが伺える。

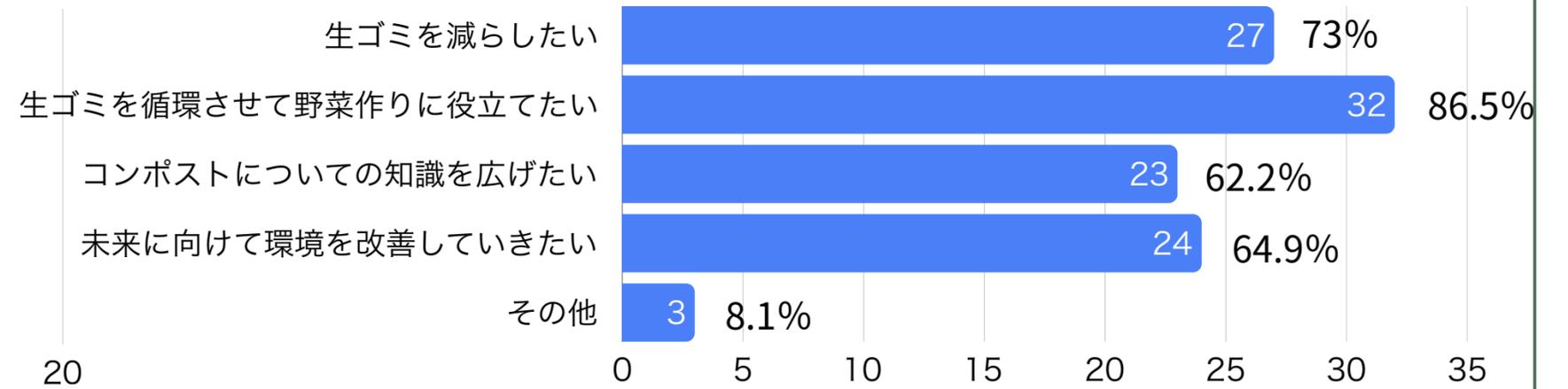
コンポスト部活動の認知経路と動機

1回目/回答36件

Q. コンポスト部についてどこで知りましたか？



Q. コンポスト部に参加しようと思った動機はなんですか
※複数回答可



《その他意見》

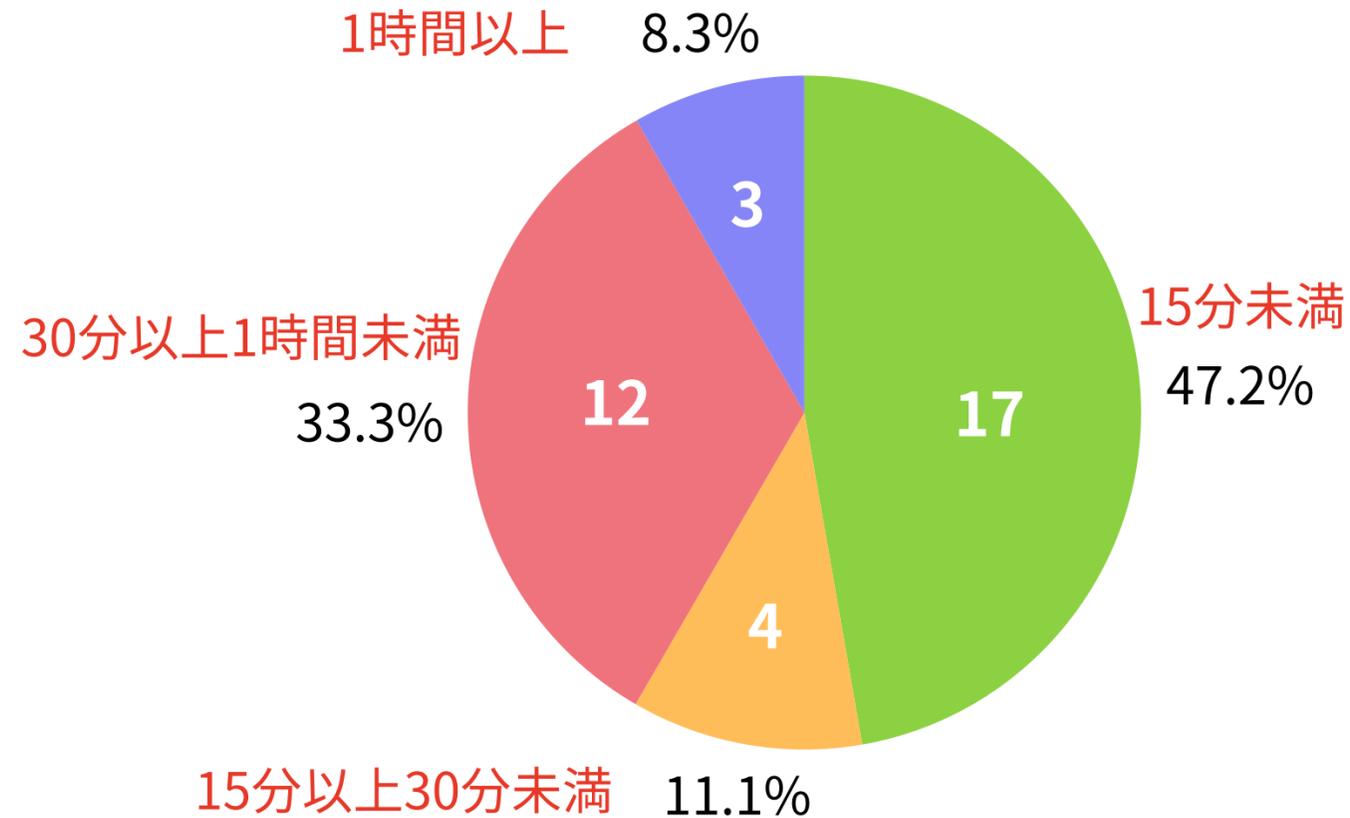
- 生ゴミをゴミとして捨てる罪悪感からの解放
- 日頃から土に触れたい
- 農活について知りたい

「知人からの情報」(口コミ)と、「はらはらファームの掲示」(ファーム前に掲示していたチラシ)で知った方が多数。生ごみを定期的に持ち運ぶプロジェクトであり、実際の場所を見たり、参加者から話を聞くことで参加に繋がった人が多い。ウェブ情報全盛の時代だが、地縁や人のつながりが効力を持った。動機については、生ごみを循環させて、野菜作りにつなげたい人が8割以上、循環型生活への意欲が伺える。また、コンポストについての知識を広げたい人も6割以上と、コンポストについて、実践しながら教えてもらおう機会を求めている人が多い。

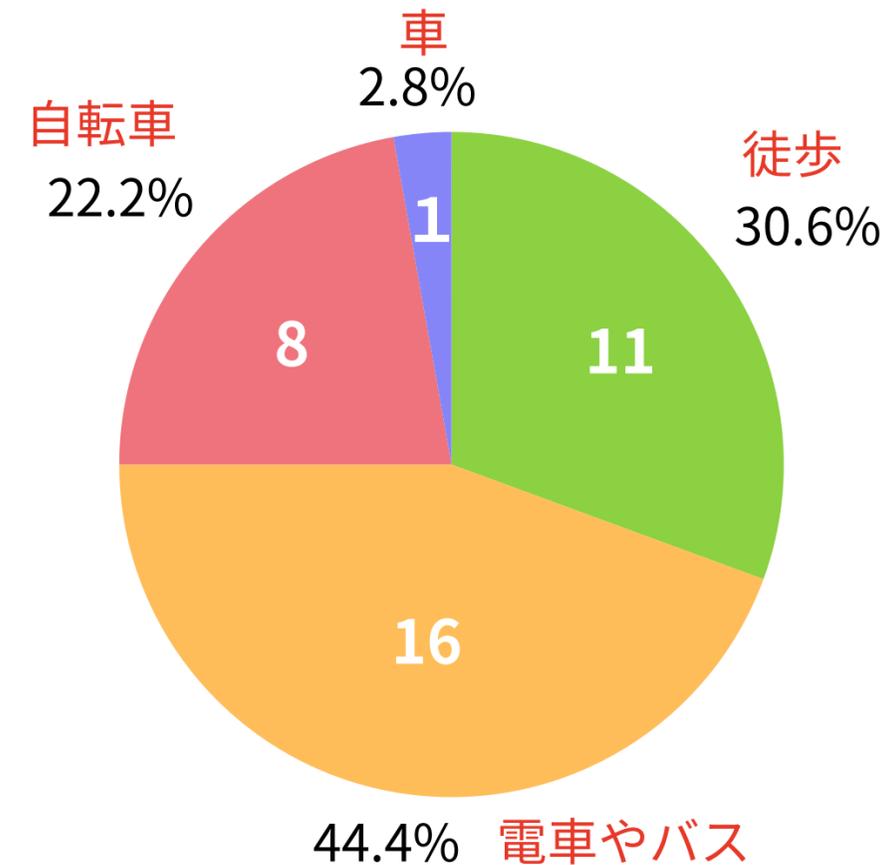
参加時の移動手段と所要時間

1回目/回答36件

はらはらファームに来る際の所要時間



原宿はらっぱファームまでの主な移動手段



交通手段は、都市のため、徒歩や自転車、電車、バスが大半。所要時間は「15分未満」が約半数と近所の利用が多いものの、「30分以上1時間未満」も3分の1となっており、時間をかけても菜園に訪れ、コンポストに生ごみをいれたいという意欲の高さが伺える。

参考) 生ごみ運搬に使用した容器

- プラスチックのバケツ 21組
- 小型コンポストSHAKE 20組
- その他) コンポストバッグなど) 1組

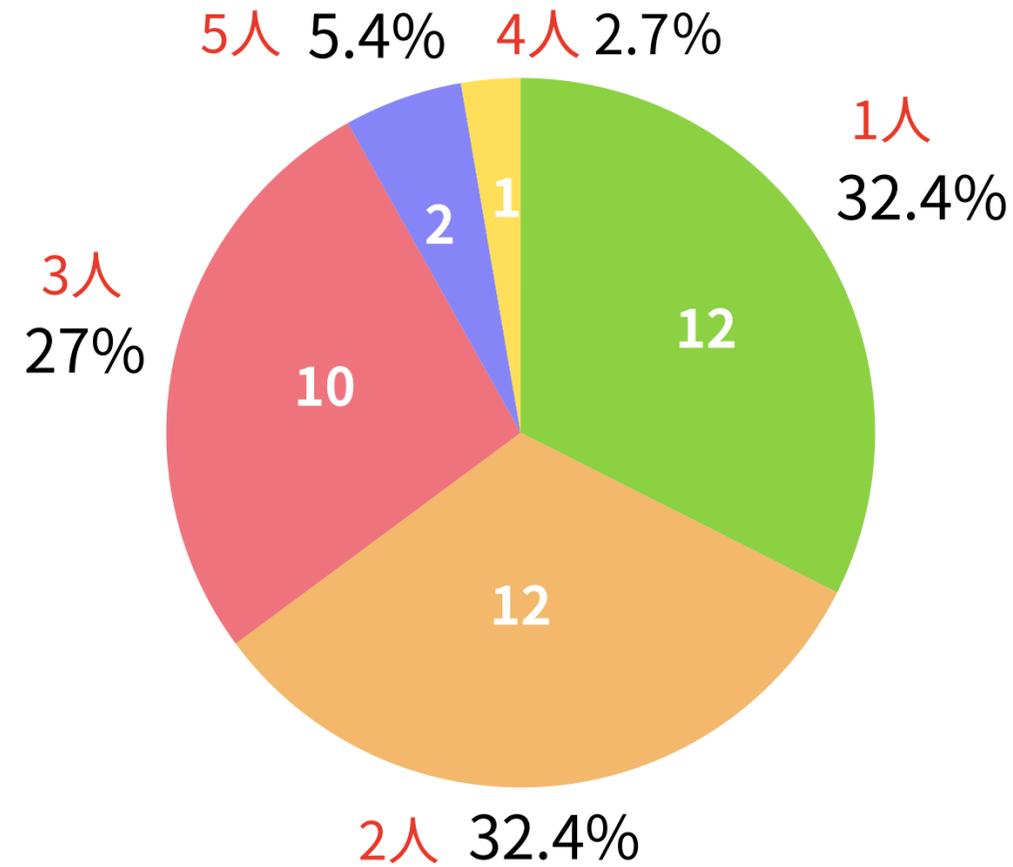


今回のコミュニティコンポスト実証実験では、生ごみを家庭で一時保管し、共同コンポストまで持ち込むまでの容器として、①不織布でできた円筒形のバッグ型コンポストSHAKEと、②プラスチックのふたつきバケツを用意し、先着順に好きな方を選んでもらった。実際には、水漏れの心配はほとんどなく、電車で1時間以上かかる場所に住む参加者には、持ち運びしやすいSHAKEを提供した。

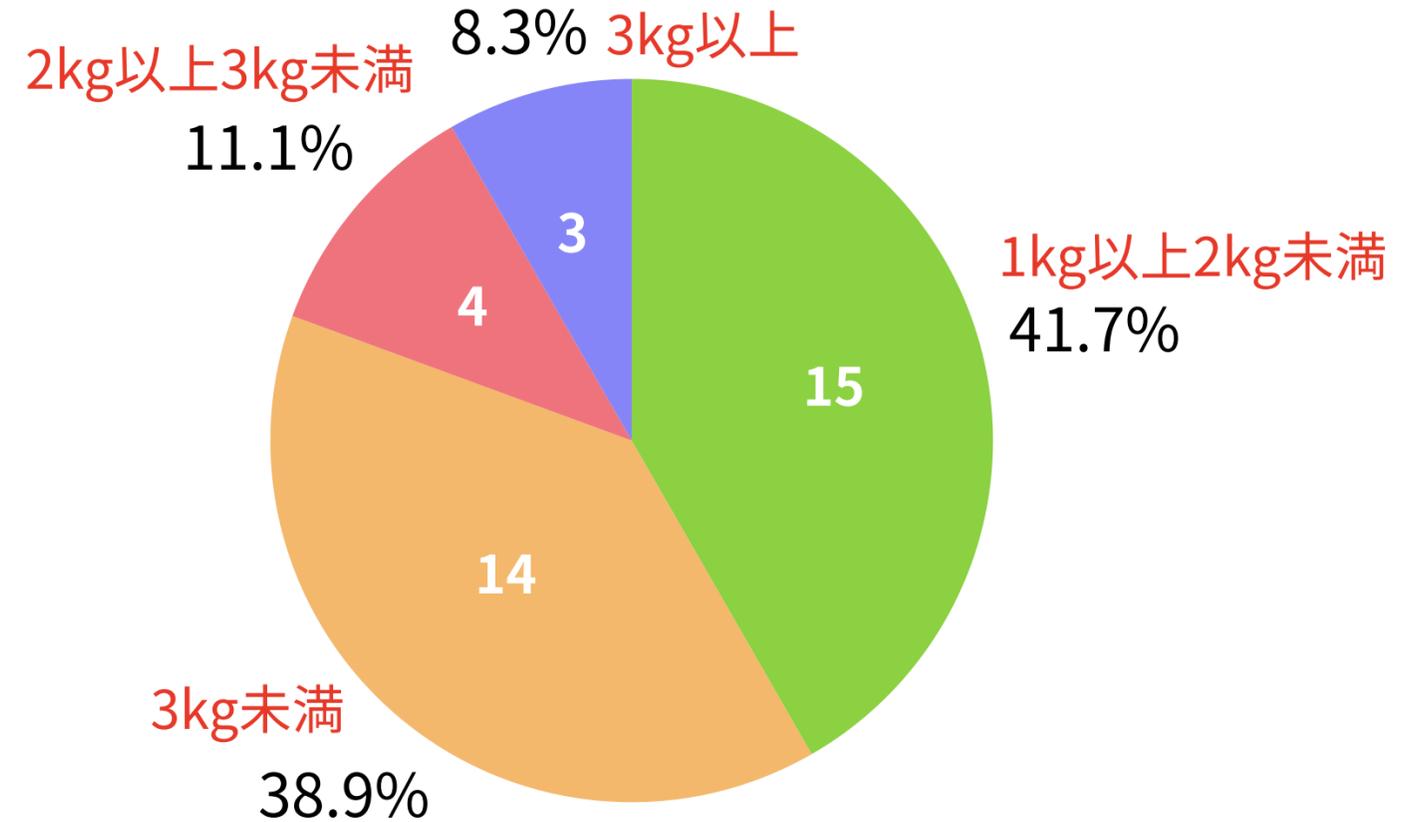
世帯人数及び生ごみの量

1回目/回答36件

同居している人の人数



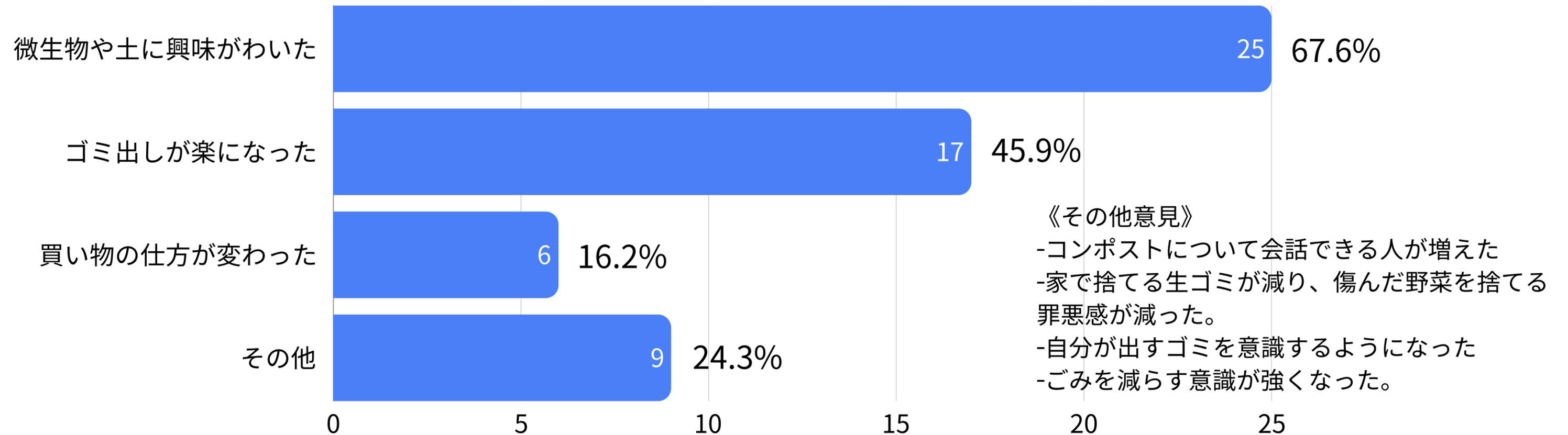
一週間で出る生ごみの量



参加者の世帯の平均人数は2.16人。東京都 1世帯あたりの平均人数 1.82人（令和7年）より若干多い。家族の人数や、料理の仕方、外食の頻度などの要因で家庭で出る生ごみの量はばらつきがあるが、1週間に2kgほどを分解できれば、家庭用コンポストとして有用であることがわかる。

コンポスト部参加後の暮らしの変化

2回目/回答28件



「微生物や土に興味があった」という回答が7割近くと最多。生ごみが黒い堆肥に姿を変え、野菜が良く育つのを目の当たりにすることで、生態系や土壌への関心が高まっている。

家族の反応

最初はめんどくさがっていたが、においなどでないし意外と体積が減るので協力的になった。

はじめはしらけた目で見られていました。「虫が出そう」「虫湧かないの？」などなど小言を言われていました。

両親や兄妹にもコンポスト活動を広めました。コーヒーもよく飲むので、うまくコンポストできています。

夫も以前からやりたかったようで、協力的です。こどもは興味深く見ているので、分かる範囲で簡単に説明していますが、もっと知識を増やして興味を引き出してあげたいです。

家族との会話もどれがコンポストに入れられるかなど楽しかったです

子供は楽しく混ぜてくれます

循環に関わっているという意識が、常に持てるのが良い

生ゴミを捨てないで取っておいてくれる。

とても多くの学びがありました。特に小1の子どもにとっては微生物の存在を知り、分解をすると熱を発するとか電気がつくとか、、目をキラキラさせていました。

家族が興味を示してくれている声が多く、子供やパートナーも協力し、一緒に考える機会になっている。実際に生ゴミが減り、効果が見えやすいエコアクションであることも、家族の協力を促していることがわかる。

家族が虫の心配をしているという声もあり、虫についての知識や対応策を学ぶ機会創出が必要である。

参加後の暮らし、意識、行動の変容

生ゴミが減って大助かり。
料理をするときも注意深く
よりわかるようになった。

生ゴミがゴミと思えずお宝に思え
るようになった。夫や友達もコン
ポストに興味を持つように。コン
ポストを実践できてる自分がすこ
く嬉しくて、毎日がより楽しく感
じられるようになった

日々変化していくものと一緒にい
ることでの刺激とともに、新たな
循環を生み出すことのうれしさを
日々感じるようになりました。

食べ物を買う時にコンポス
トを意識するようになった

すごく変化がありました。
ゴミではなく、有機物（土
にかえり堆肥になる）と見
るようになりました。

なるべく捨てる部分が無い
ように買い物も調理も気を
つけるようになりました。

今まで接することの無かった地
域の方々との交流が出来まし
た。学生からご高齢の方まで幅
広い繋がりが出来て楽しかった
です。

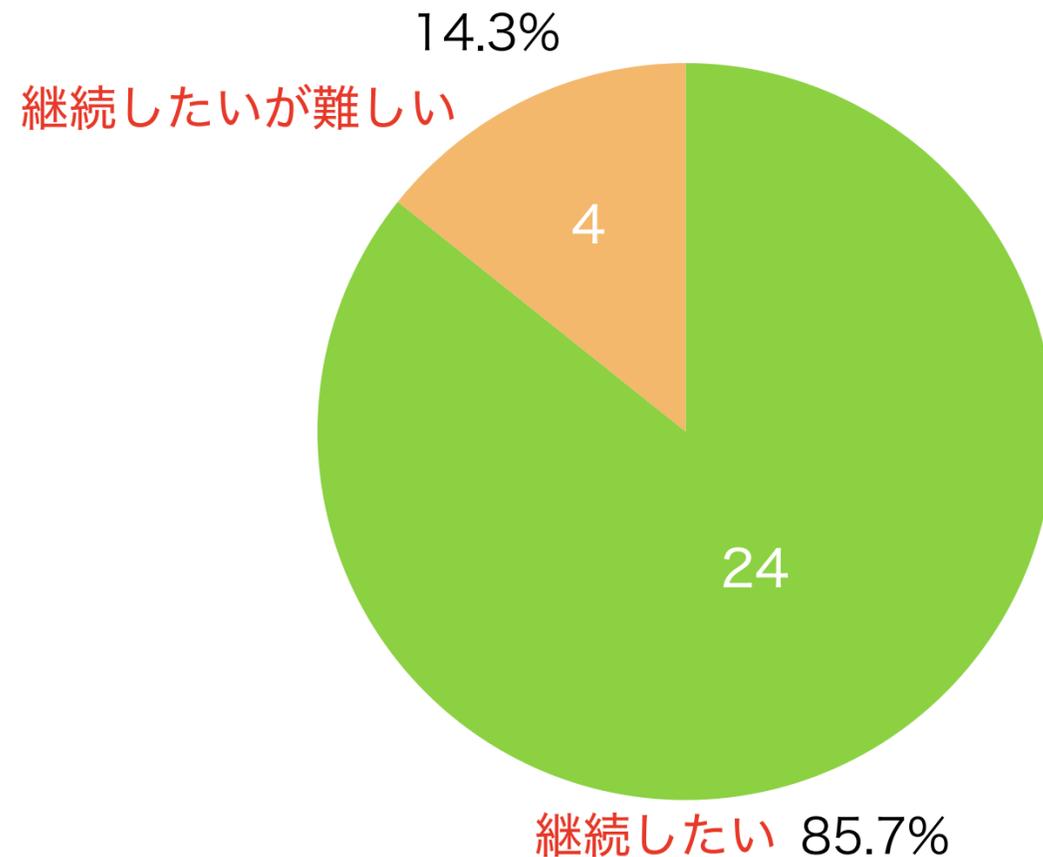
流しの生ごみ入れが、いら
なくなりました

買い物や料理のやり方など、コンポストが食生活全般をとりまく行動の変容につながっている人が多い。また、生ごみを大事に循環させる生活が実現できたことへの達成感や、コンポストを介して交流ができたことへの満足感など、精神的なウェルビーイング向上にも寄与している。

今後のコンポスト継続の意志

2回目/回答28件

Q これからもコンポストを継続していきたいと思えますか？



回答

ゴミで捨てるのがもったいない。たい肥にして野菜を育て、食べて、またたい肥になって、できたら嬉しいです。

家の近くに（コミュニティコンポストが）ないと難しいと感じました。

せっきくの循環を絶やしたくないから

出来たコンポスト（堆肥）を利用する場所がない。

どこで（生ごみ堆肥を）回収していただけるかわからず

2回目/回答28件

生ごみを自分の手で循環させることができたことの満足感は大きく、継続したいと答えた人が85%。

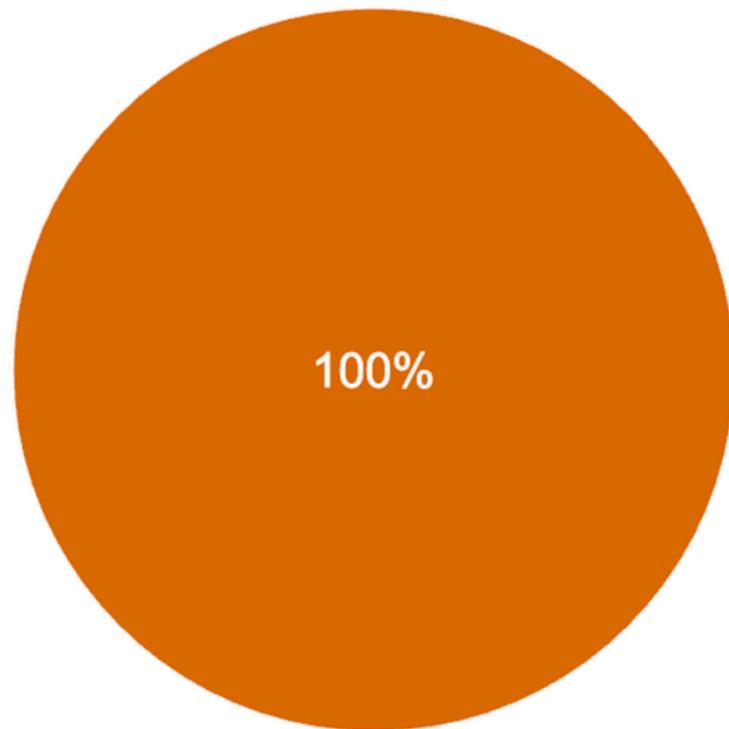
環境に良い循環型生活を続けていきたいという思いが伝わってくる。

しかし、堆肥を持っていったり回収してもらおう場所が近くにないなど、堆肥の活用面でのハードルが伺える。

コミュニティ菜園&コンポスト存在の意義

2回目/回答28件

Q 身近にはらはらファームのような
コミュニティ菜園&コンポストがあって欲しいですか？



この様なコミュニティコン
ポストが徒歩圏内にあつた
ら理想です。

とっても素敵な取り組みだと思いま
す。運営者の懐が深く、暖かく、仲
間になれたのが嬉しかったです。コ
ンポストを入れに行くと、初めて合
うコンポスト部の人と知り合えるの
も、とても嬉しかったです。仕事と
はまた別の、純粋な同志に出会え
た感じが嬉しかったです。

とても良い活動で、生活を見直
すきっかけに、なりましたし、
地域の方とのコミュニケーション
が取れる楽しい場所でした。

もっとあちこちにあつたら
いいと思う

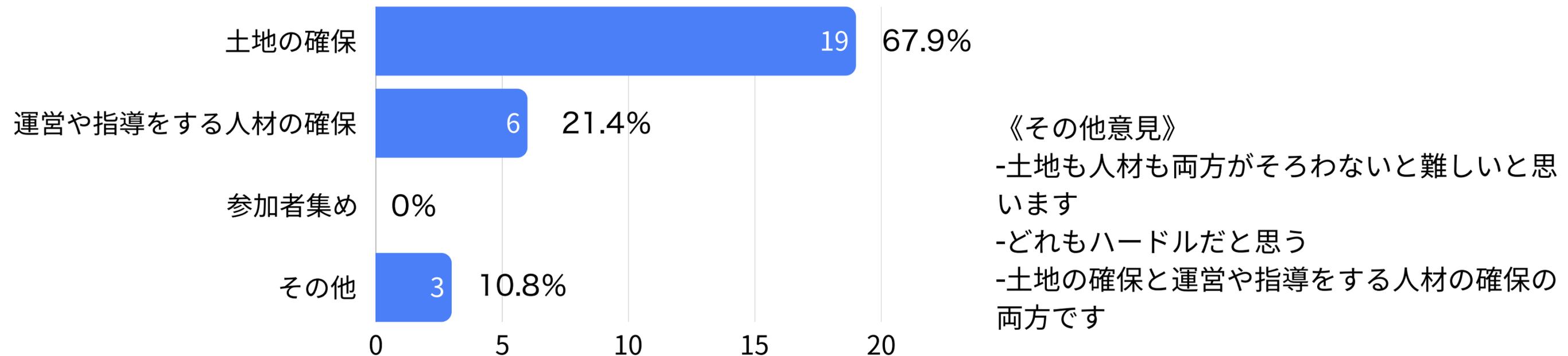
ご近所の繋がりもできて、
とても良いと思いました。

身近にコミュニティ菜園&コンポストがあることを望む人が100%。生ごみを貯めて、菜園に運び、堆肥化する活動は、時間も手間もかかるが、実際にコンポスト部で活動してみた上で、その効果や存在意義を実感している人が多いことがわかる。

コミュニティ菜園&コンポストを作る上での課題

2回目/回答28件

Q コミュニティ菜園&コンポストを身近に作る上でハードルになるのはどんなことだと思いますか？



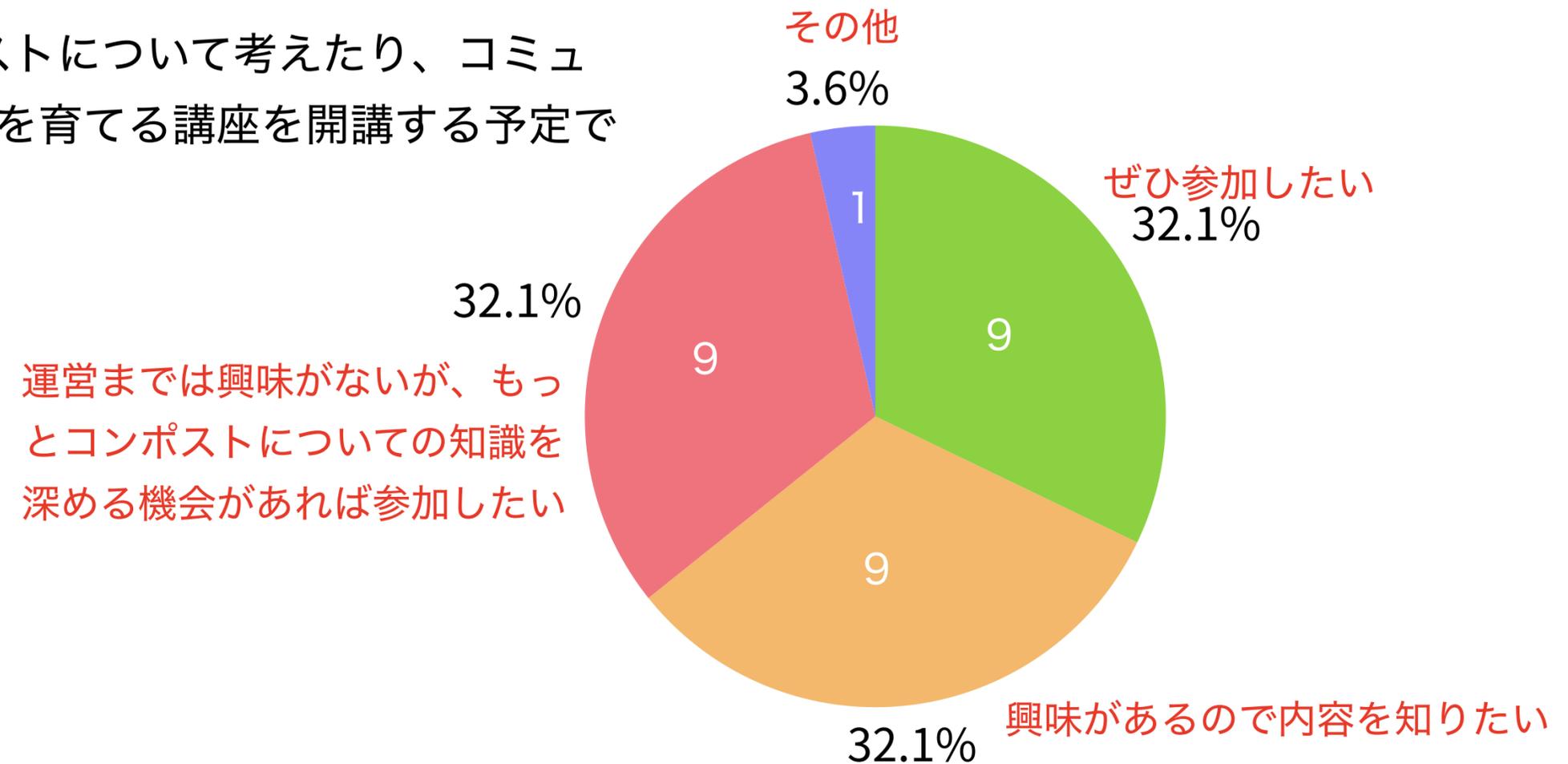
土地の確保をあげた人が7割近くと最多。また、仮に土地があっても、人材がいなければ運営ができないという認識もある。

地域に、コミュニティ菜園を企画運営できる団体や人材がいれば、菜園に転換可能な土地が確保できる事例もあり、今後、どのように地域で人材育成をしていくかが課題となっている。

菜園&コンポストを運営できる人材の育成講座への関心度

2回目/回答28件

Q. コンポスト東京では、コンポストについて考えたり、コミュニティコンポストを運営できる人を育てる講座を開講する予定です。参加にご興味はありますか？



「ぜひ参加したい」「興味があるので内容を知りたい」と回答した人が18人（全体の64%）と多かった。コミュニティコンポスト活動に参加しその良さを実感することで、他の人にもこの活動を広げたいことが伺える。このような実践の場を広げて、意欲がある人が学ぶ場を作ることによって、コミュニティ菜園&コンポストを増やしていける可能性がある。

コンポスト部活動への自由な感想

全ての公立小中学校でコンポストの活動を始めてほしい！全ての中学校区に1カ所、地域の人を持ち込めるコンポストが設置されたら嬉しい。

1人ではなくみんなで学び合いながら、資源循環に参加できて気持ちがいいコミュニティだと思います！

地域交流としての場であり土と触れ合うことのできる貴重な空間がとてもありがたいです。このような取り組みがながく継続して広がっていくことを願います。

やはりコンポストが大きいとフカフカになって豊かな気持ちになるし、それを共有できるのは素敵だと思いました

コンポストを定期的に行っていくことで必然的に畑に通うことにもなるので、とてもよい組み合わせの企画だと思います。

できれば今後もぜひ続けてほしいですし、東京でもコンポストの仕組みがもっと広がってほしいなと心から願っています

堆肥の受け入れがある事、困った時に相談出来る、万が一失敗してもファームへ持ち込めば良い堆肥になる事が分かっている安心感がセットで始められるのは初心者の方にとってとても心強いと思います。自宅でコンポストにチャレンジしながら、コミュニティコンポストで更に追熟できて安心して土に戻せると言うのは素晴らしいと思います！

地域のコミュニティに参加できてうれしいです

コンポスト部活動が、コンポストを始める良いきっかけとなっており、また学びや交流の場を提供できていることがわかる。また、自分が実践するだけでなく、周りに広めていきたいと意思を持つ人も多い。地域に、菜園&共同コンポストのような拠点を増やしていくことが、農や生態系の関心を高め、関係人口を増やしていく上で効果を持つことが伺える。

調査② ファーム来場者・イベント参加者アンケート

【ファーム来場者・イベント参加者】

原宿はらっぱファームでは、随時、開園日を設けて一般来場者を受け入れた他、ファーム内で年数回イベントを開催（11月の感謝祭など）した。また、ファーム内のコミュニティコンポスト周辺や近隣の公共施設で、コンポスト講座やコンポスト交流会を年間を通して開催し、コンポストについて学んだり、交流する機会を提供した。

これらの参加者に対し、日頃の課題意識や、イベントについての感想を聞き、コミュニティ菜園&コンポストの方向性や普及施策についての参考とした。



回答者属性

回答90件

性別

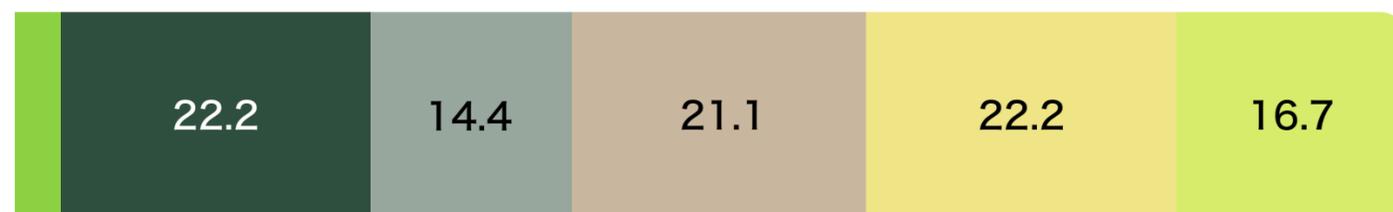
● 男性 ● 女性



男性：20人 | 女性：70人

年齢層

● 10代 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代以上



10代：3人 | 20代：20人 | 30代：13人 | 40代：19人 |
50代：20人 | 60代以上：15人

参加者の8割近くが女性。

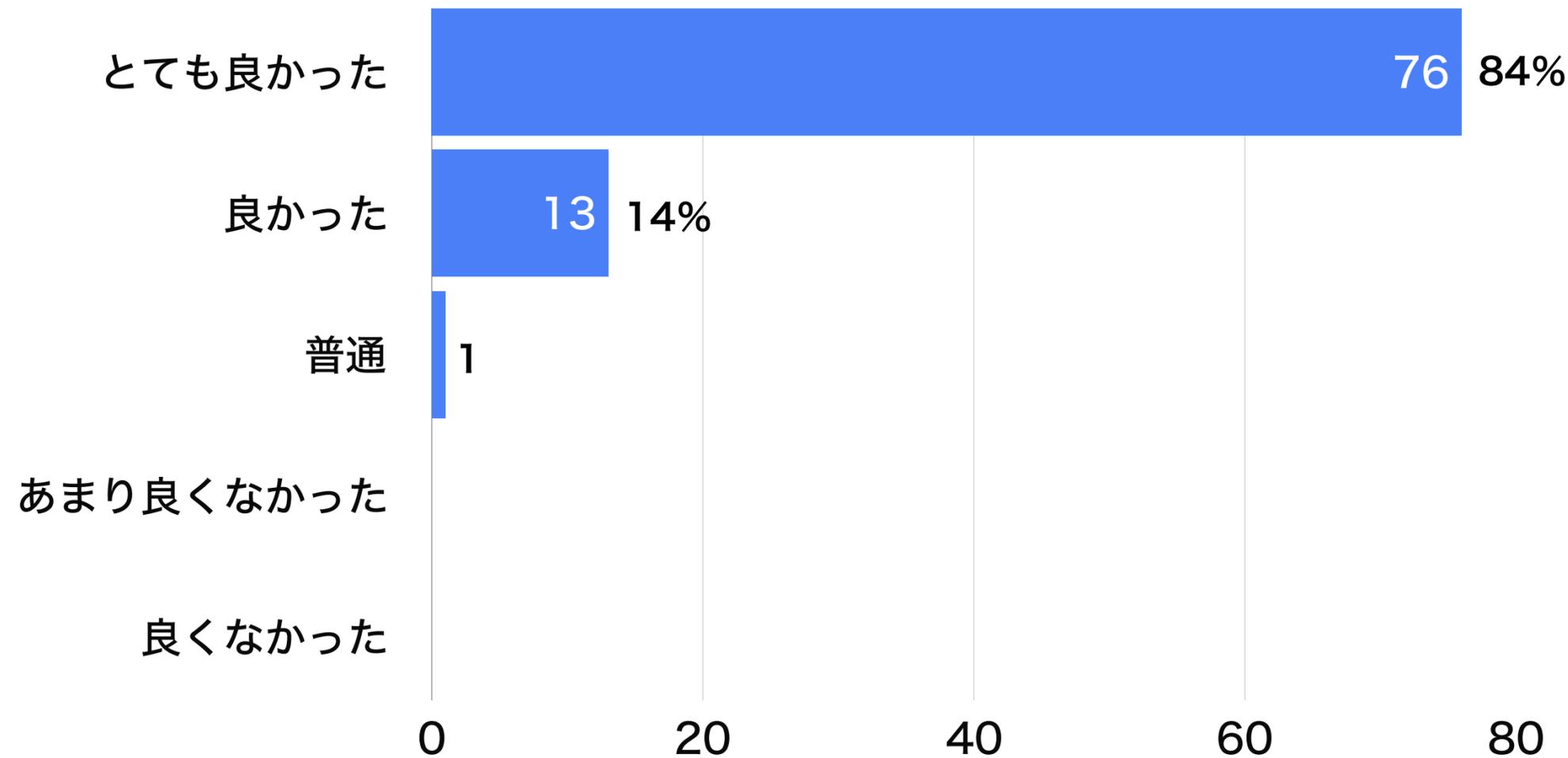
20代以上のどの世代もまんべんなく参加している。

原宿という土地の利点もあり、多世代が、「都市の真ん中の畑」に関心を寄せたことが伺える。

イベント参加者の満足度

回答90件

Q 今回の講座・交流会・イベントに参加されていかがでしたか？

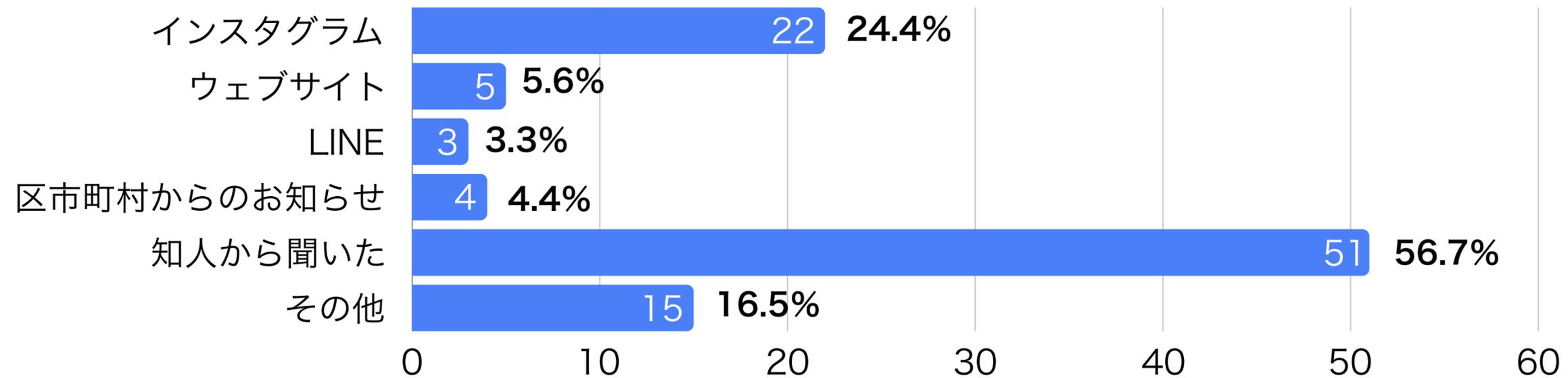


参加者の84%が「とても良かった」と回答。「良かった」とあわせると98%となった。
コンポストや畑への関心を持つ層にフィットした内容の学びや交流の機会を提供できている。

イベントの認知ルート

回答90件

Q このイベントをどうやって知りましたか？ ※複数回答可



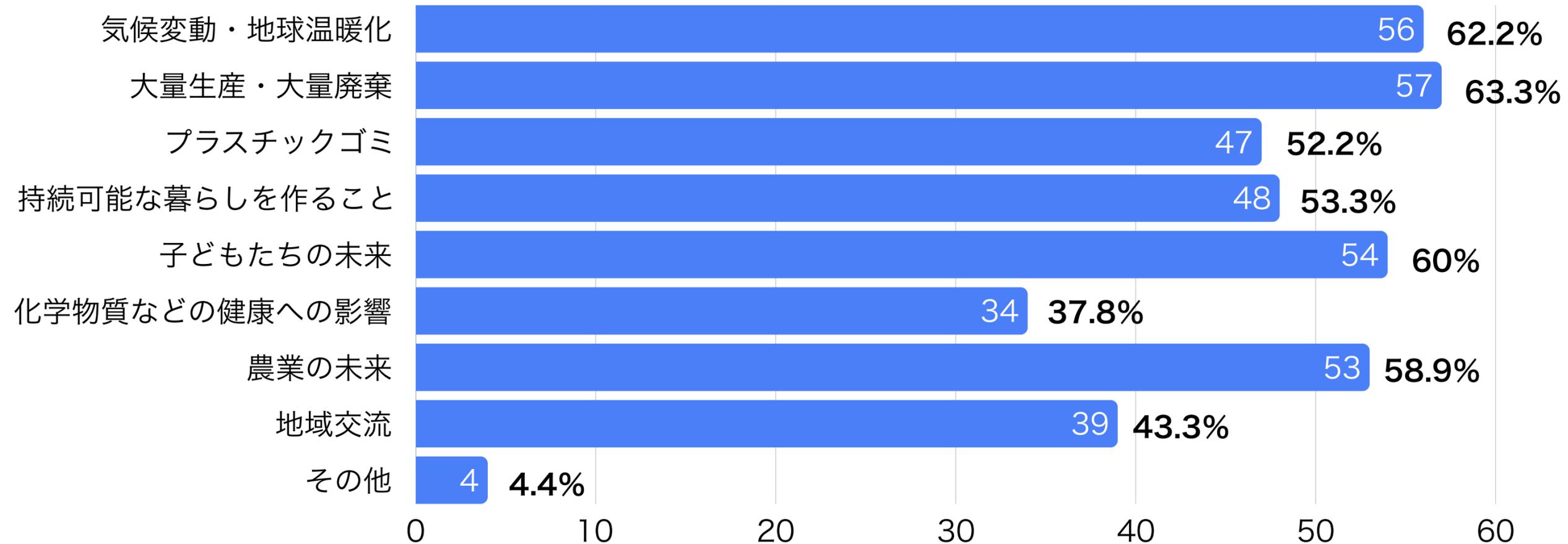
《その他意見》 学校からのお知らせ 運営メンバー ファームの人に聞いた 青学のcecセンターから知った
イベント参加で知った 墓参りの帰り 畑のメンバー サポーター&ハーブクルーズ主催 学びの畑 コンポスト部で知った

原宿はらっぱファームの公式SNSがInstagramだったため、Instagram経由で情報を得た人が多いが、その2倍以上の人が「知人から聞いた」と回答。ファーム近隣の地域コミュニティ内で知り合いを誘ったり、畑やコンポストに関心のあるコミュニティ内で情報がシェアされ、イベント参加につながっていた。

参加者の課題意識

回答90件

Q 日頃、どんなことが課題であったり、改善が必要だと感じていますか？※複数回答可

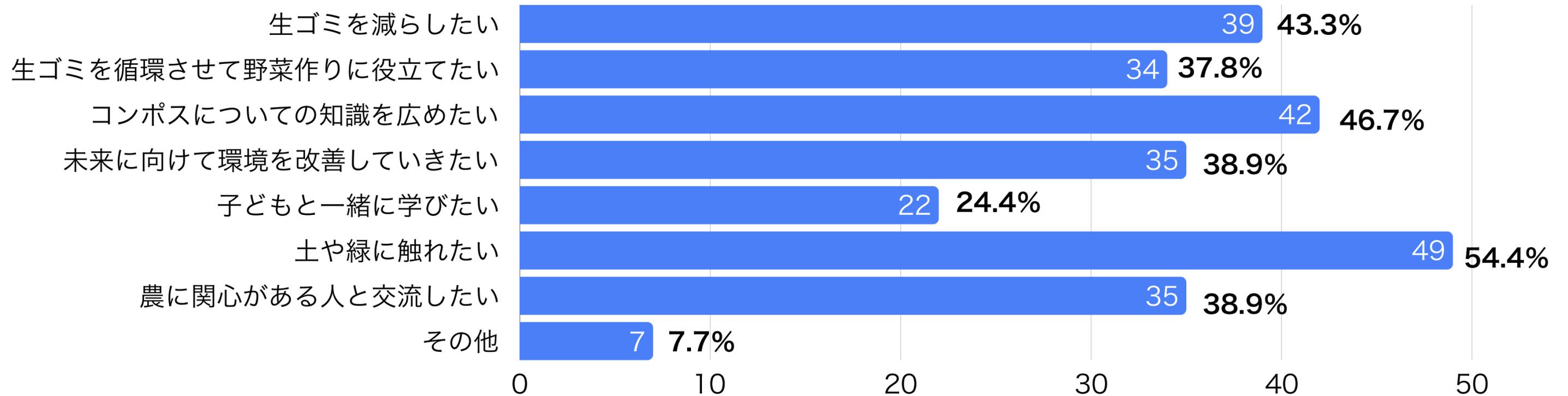


コンポスト部参加者と同様、「大量生産・大量廃棄」「気候変動・地球温暖化」「農業の未来」への課題意識が強い。

講座・イベント参加の動機

回答90件

Q 今回の講座・イベントに参加しようと思った動機は何ですか？※複数回答可



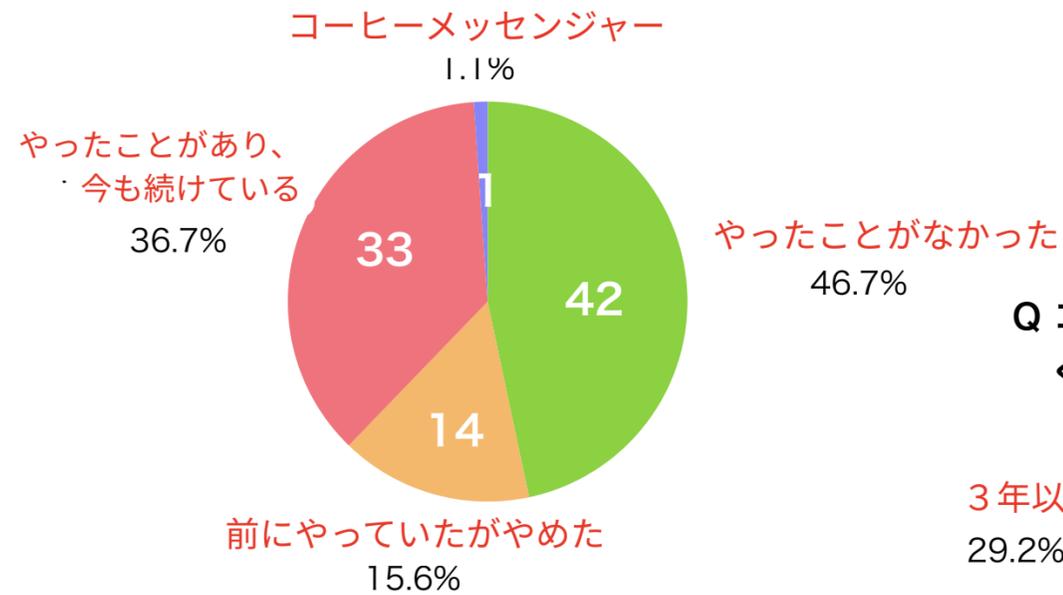
《その他意見》・スタバコーヒーが飲めるから・コミュニティコンポストの研究に活かしたい ・たまたまオーガニックに興味があったので ・取り組みを知りたかった ・知人がやっている ・先進的な事例としての視察

半数以上の人々が「土や緑に触れたい」と回答。都心の菜園はプランタースタイルのところが多い中、原宿はらっぱファームは畑や原っぱで土に触れることができる貴重な場であり、そこに惹かれて来場した方が多かった。生ごみ循環の実践やコンポストについての知識を得たいからという人も多かった。

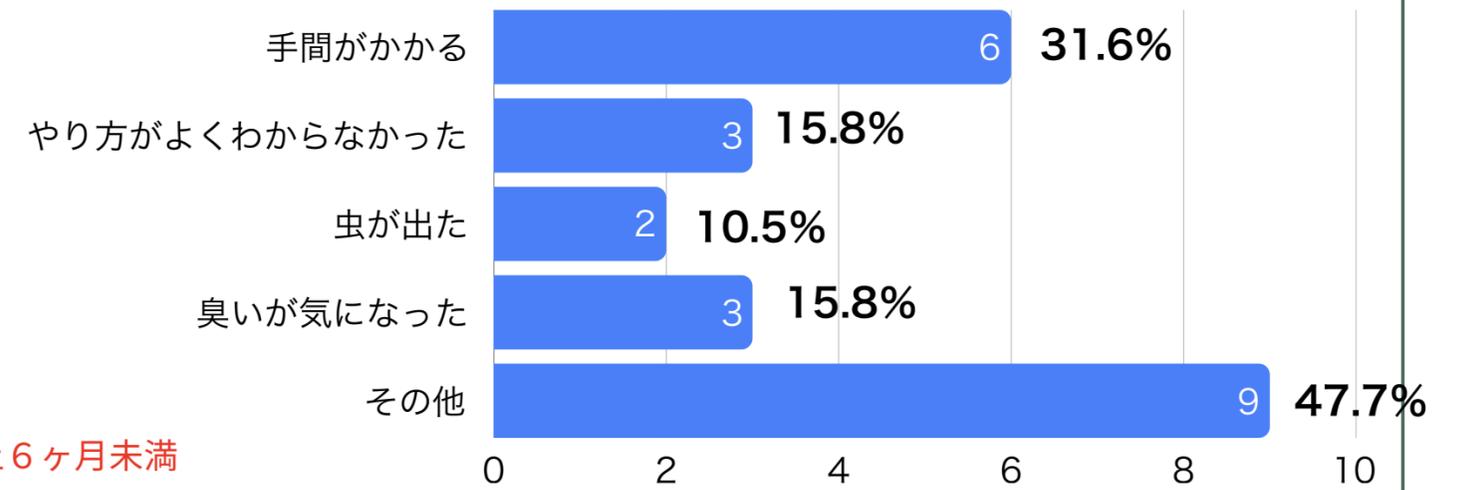
参加前のコンポストの経験

回答90件

Q 参加前のコンポストのご経験は？



Q コンポストのご経験があり、やめたことのある方へ⇒やめた理由はなんですか？



Q コンポストの経験がある方へ⇒何年くらいやった経験がありますか？



《その他意見》・引越し ・分解しなかった ・バグタイプで3ヶ月で終わった ・土の処分に困った ・ミミズのコンポストをやった後引越し ・忙しくなった ・仕事上の実験で取り組んでいたため期間が終わった

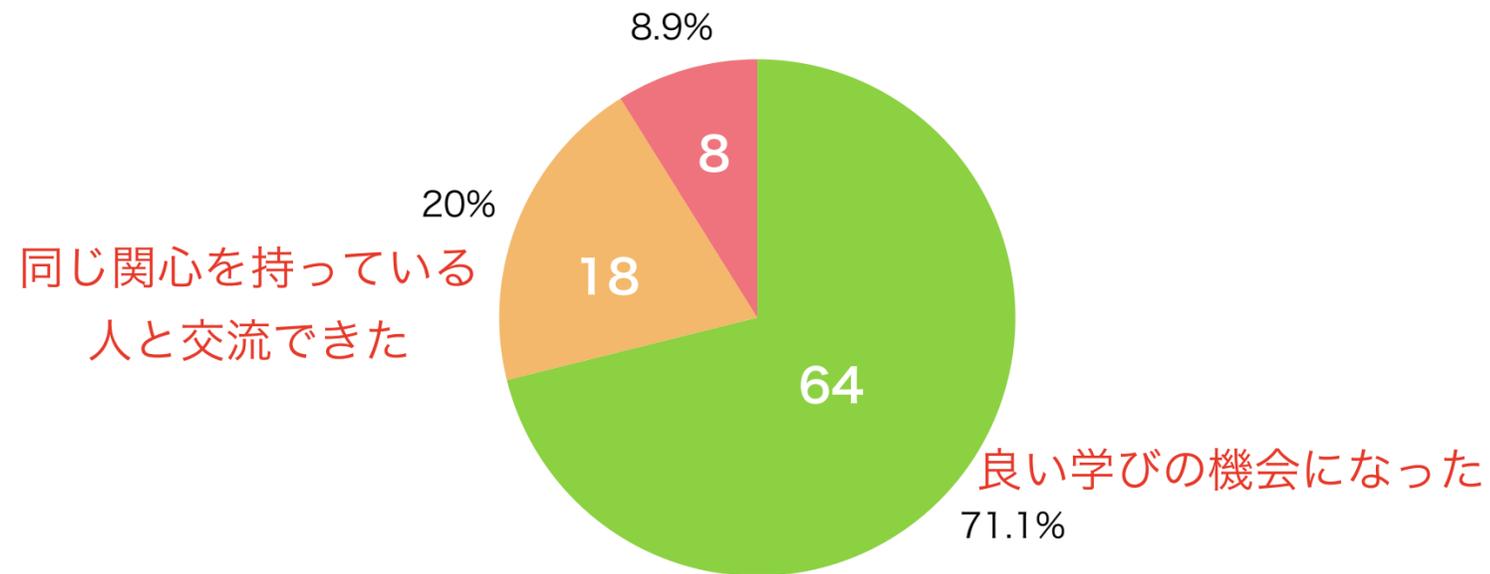
イベント参加者の半数近くはコンポスト未経験者。講座や交流会が初めてコンポストに触れる機会となっていた。また、コンポスト経験があるがやめた理由の最多は「手間がかかる」。今年度、「キエー口」など比較的手間がかからず簡単なコンポストをテーマにした講座を実施したが、このような、あまり手間がかからないコンポストについての情報提供を実施したり、コンポスト部のようなコミュニティを作っていくことが継続を促す効果がある。

イベント内容についての声

回答90件

Q 内容はいかがでしたか？（複数回答可）

コンポストを実際に見たり、触れることができてよかった



講座やイベントへの参加が、「良い学びの機会となった」と答えた人が7割。生ごみ問題や、コミュニティ菜園&コンポストについて実際に触れて学び、考える機会を提供できた。

また、緑に触れたり、同じ関心を持つ人と交流できる機会の提供にもつながった。

生ゴミに大量の水分が含まれていることは気にしたことがなかった。コンポストを始めたと思った。

私の地域にも地域コンポストほしい！

生ゴミ問題に息子が興味を示し、一緒に参加できて嬉しかったです

個人ではなくコミュニティでコンポストを維持管理する取り組みが印象的でした。

感心しましたが、持続可能な活動になりうるかは課題もあると感じました。

こういう地域交流の場が、もっと増えるといいな

都会の真ん中の畑に癒されました

1人で来ても楽しめました。コンポストや畑など、ちょっと質問すると熱心に丁寧に答えてくださる方ばかりで、そういう方が集まる場所なんだなあとあらためて感じました。

東京のど真ん中で植物に触れ合えることができ、心をリフレッシュする事ができました

調査③ 原宿はらっぱファーム活動参加者アンケート

【原宿はらっぱファーム活動】

期間限定の都市型共創ファームとして設営された原宿はらっぱファームは、多くのボランティアを含む活動メンバーによって、企画・運営された。

●畑メンバー（畑作りをするメンバー ※有料の登録会員）

●みんなの畑サポーター

●コンポストメッセンジャー（青山学院大学学生による近隣のカフェからコーヒーかすを運び堆肥化する活動）

●イベント実行委員（感謝祭等のイベントを企画・運営）

コミュニティ菜園&コンポスト運営に必須となる、こうしたコアメンバーたちの意識や行動についてアンケートを行った。

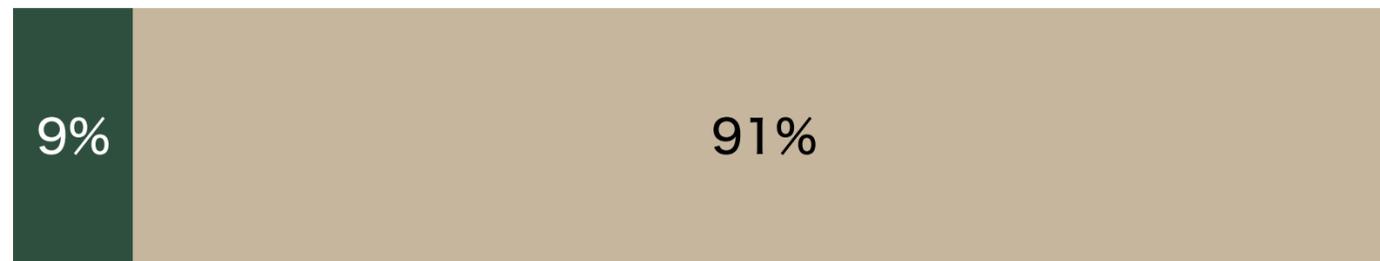


回答者属性

回答 23件

性別

● 男性 ● 女性



男性：2人 | 女性：21人

年齢層

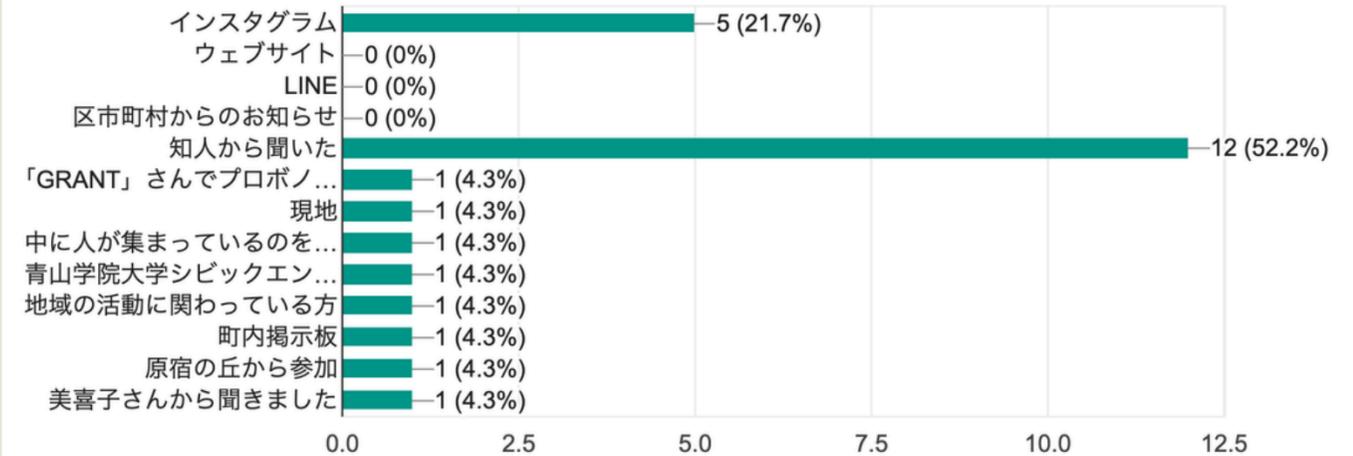
● 10代 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代以上



10代：1人 | 20代：5人 | 30代：0人 | 40代：8人 | 50代：7人 | 60代以上：2人

原宿はらっぱファームのことをどうやって知りましたか？（複数回答可）

23件の回答



【回答者の所属チーム】

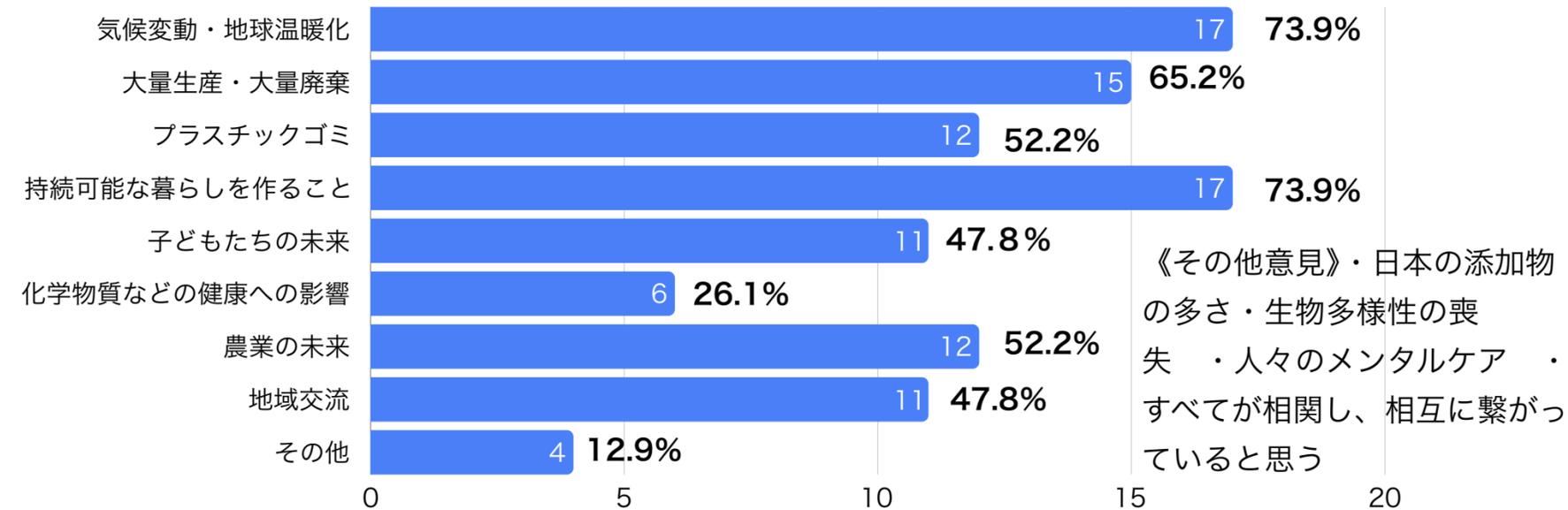
- 学びの畑・つながる畑
- みんなの畑サポーター
- コンポスト部
- コーヒーメッセンジャー
- 広報・感謝祭実行委員

女性が9割。40～50代が中心。
認知経路は「知人から聞いた」が多数で、ファームの近所の方や運営メンバーの知り合い、近隣の青山学院大学学生が多く参加していた。

参加者の課題意識と参加動機

回答 23件

Q 日頃、どんなことが課題であったり、改善が必要だと感じていますか？※複数回答可

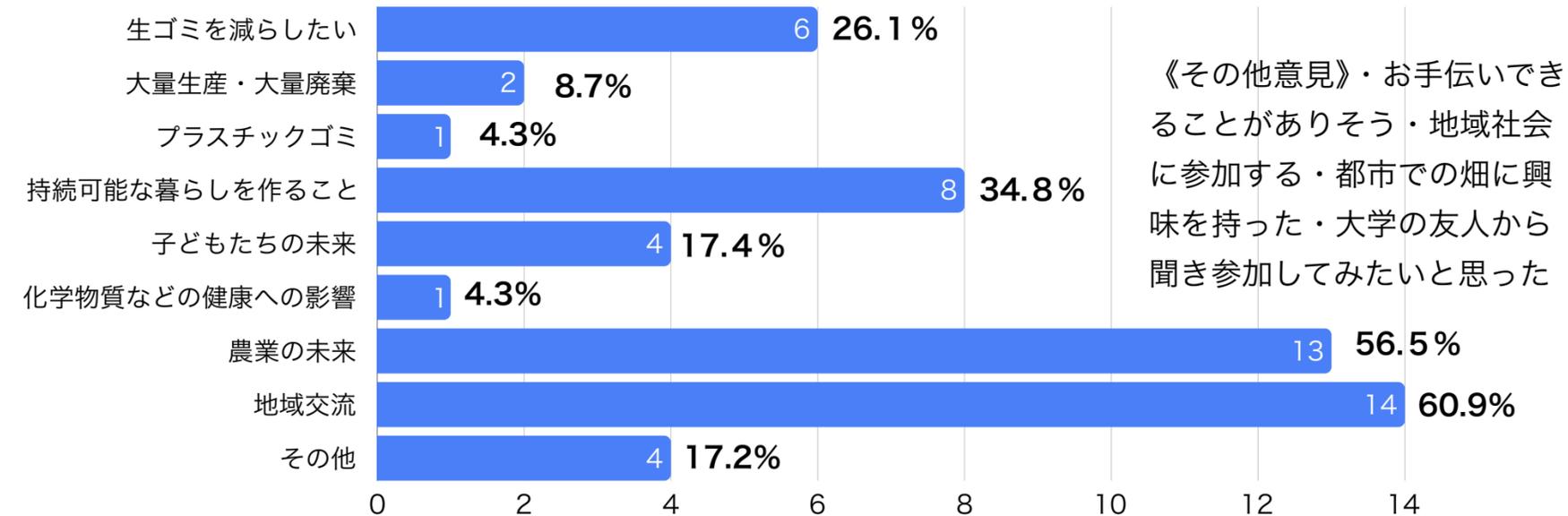


課題意識は、コンポスト部やイベント参加者とほぼ共通。

原宿はらっぱファーム活動への参加動機は、参加者の約6割が「農業の未来」と「地域交流」をあげている。

都心で循環型農業を実践する取り組みにふれながら、同じ関心を持つ層と交流ができる点に、魅力を感じて参加した人が多いことが伺える。

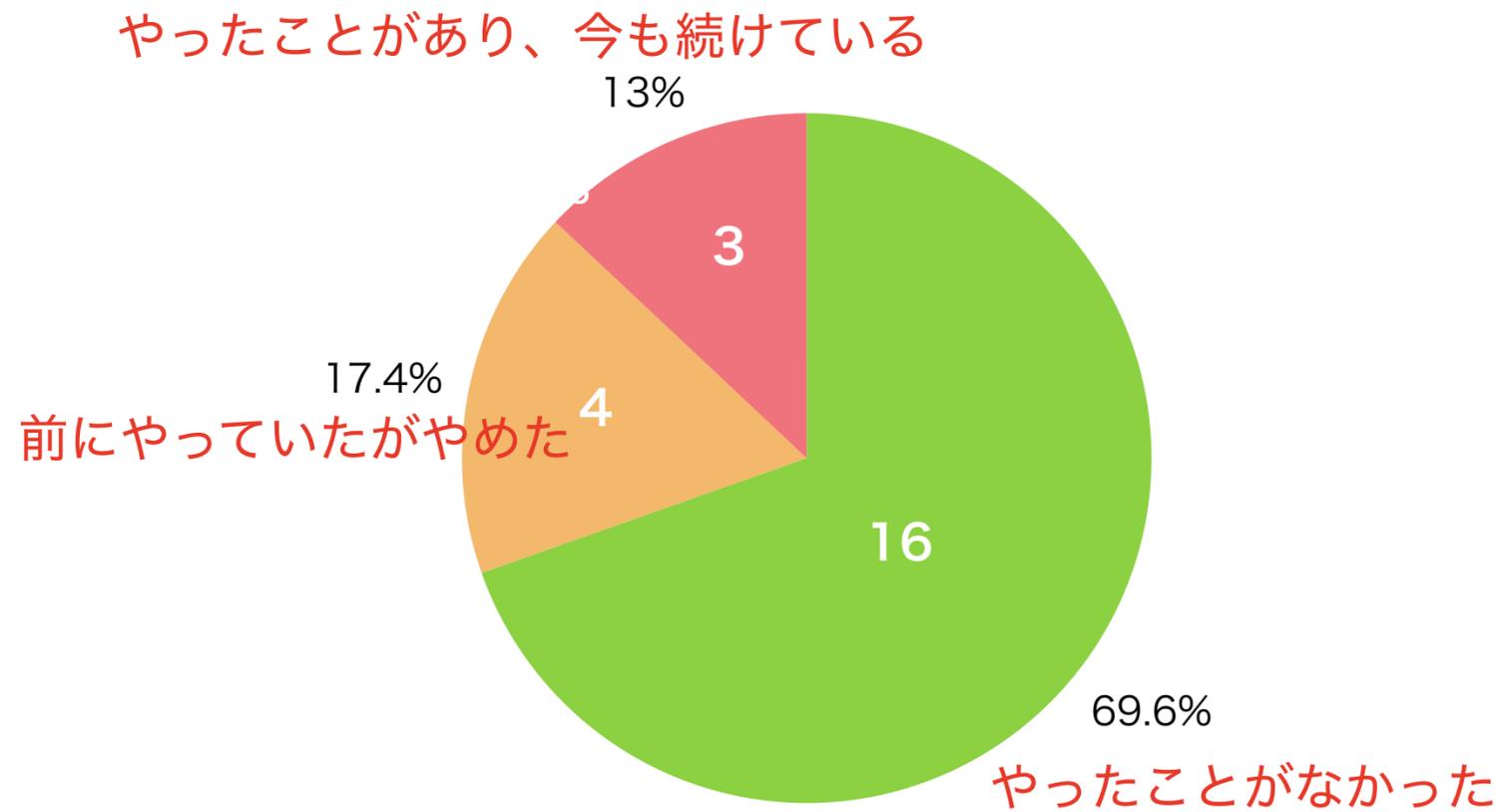
Q 原宿はらっぱファームの活動に参加しようと思った動機は何ですか？※複数回答可



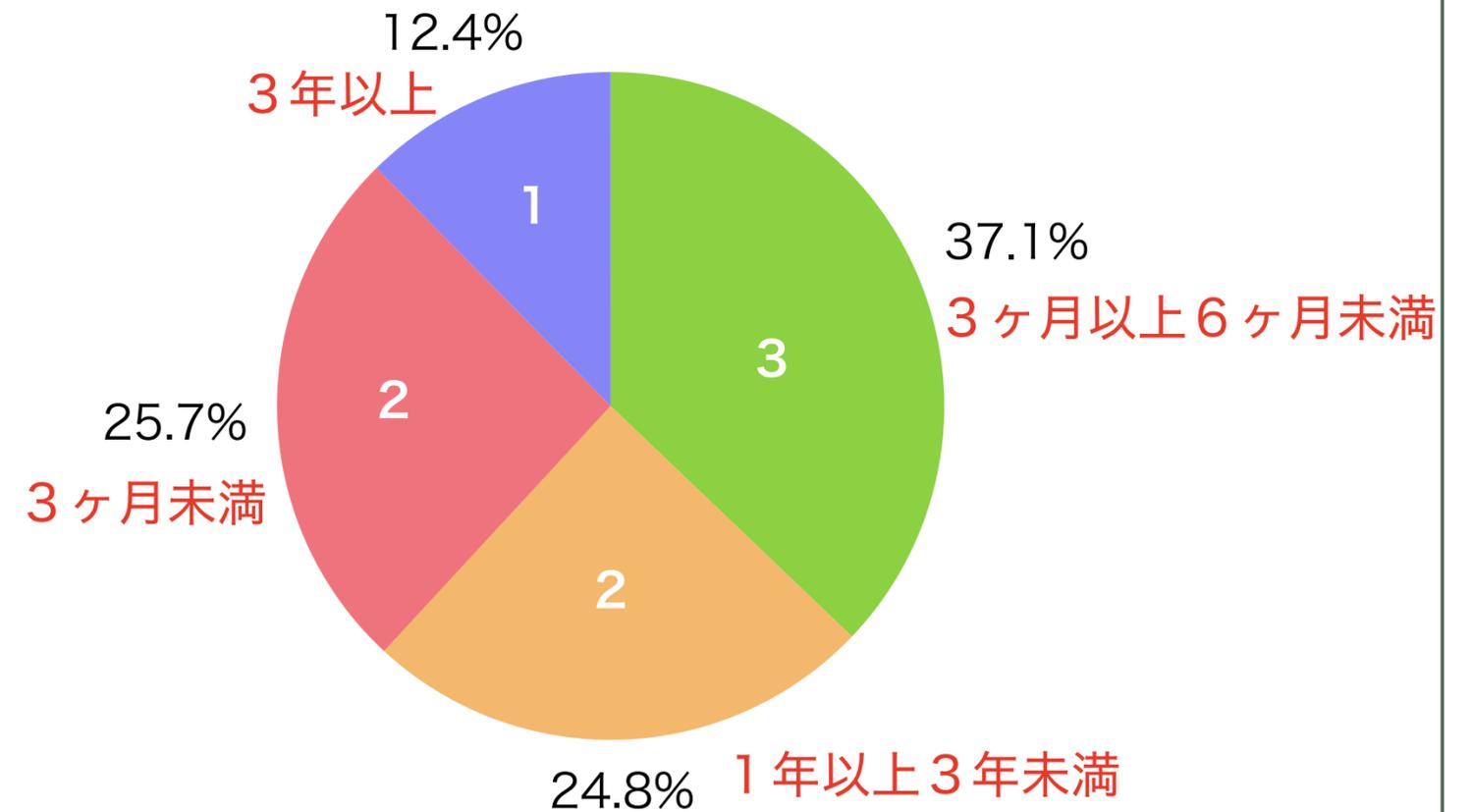
コンポスト経験

回答 23件

Q 参加前にコンポストのご経験はありましたか？



Q コンポストの経験がある方へ⇒何年くらいやった経験がありますか？

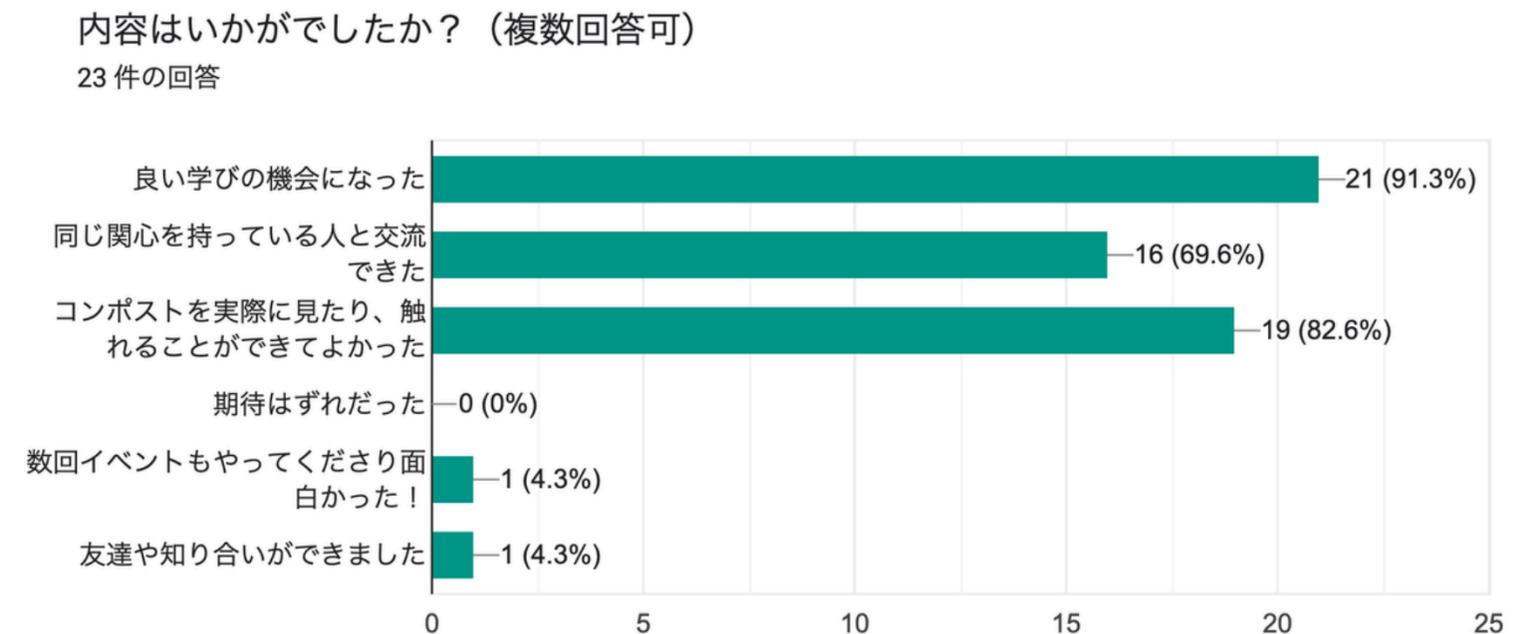
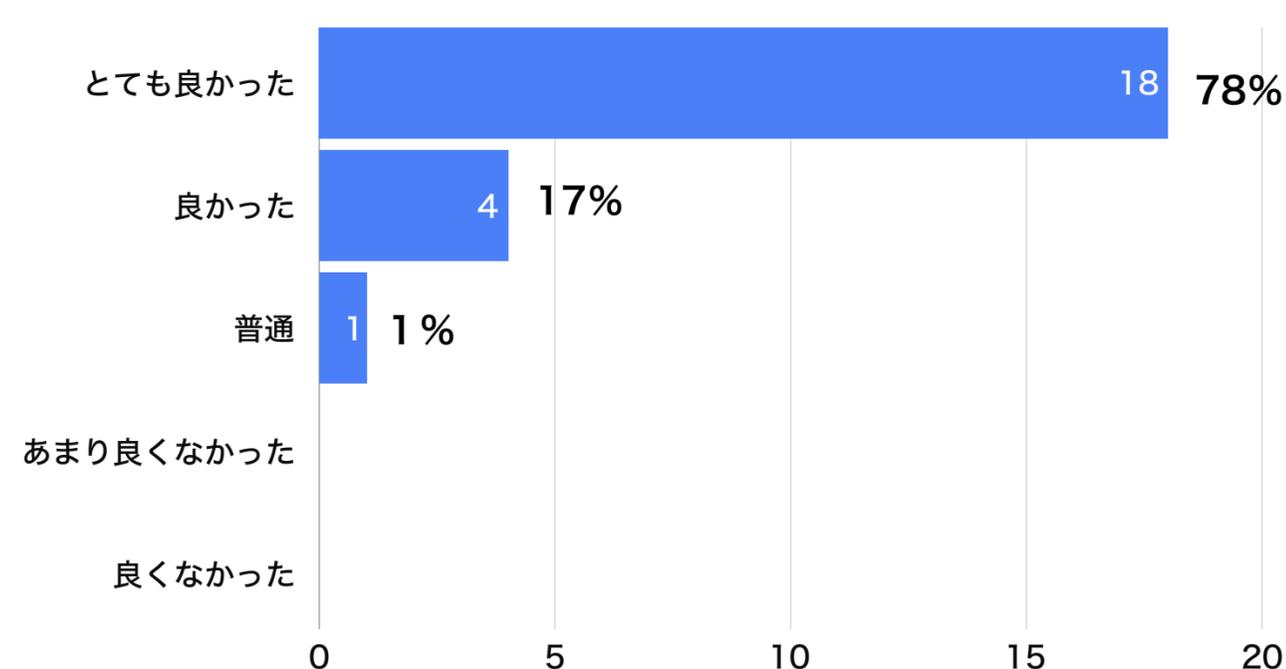


活動参加者については、7割近くがコンポスト未経験者。原宿はらっぱファームの活動が、コンポストと畑の関係について知る機会になったと思われる

活動参加者の満足度

回答 23件

Q. 原宿はらっぱファームの活動に参加されていかがでしたか？



参加者の78%が「とても良かった」と回答。「良かった」とあわせると95%となった。

コミュニティ菜園での定期的な活動（畑作り、コンポストでの堆肥作り・ファーム運営業務など）に関わることで、学びや交流の機会を生み出したことが参加者の大きな満足感を生み出している。

原宿はらっぱファーム活動への感想

一年ありがとうございました。コンポストや野菜作り、わからないことだらけのスタートでしたが、楽しく活動できてワクワクの体験でした。

娘が自分の手で育てた野菜を、誇らしげに、心から「おいしい」と感じながら大切に口に運ぶ姿に、胸がいっぱいになりました。

身近に土があること、触れられる事の出来る環境が、人間には必要なんだなあと思えました。

土に癒され、大地の恵みを感じ、収穫祭では人の温かみを感じた、忘れられない一年となりました。

大都会の原宿の中に、地域の皆さんとの交流や自然との触れ合いができる場所があることがびっくりでした。

コンポストを中心としたはらっぱファームが、単なる自然保護の取り組みではなく人々の交流の場となっていることに関心を持ちました。

仕事や子育てでモヤモヤした気持ちで畑に来ても、土に触ってみんなでワイワイしているうちに気分がスッキリして帰り道はいつも幸せな気持ちになっていました。

活動を通してコンポストという取り組みを初めて知った。またコンポストを介して学部も年代も異なる人たちと交流することができ、持続可能農業に関してのみならず私の将来についても視野が広がった。

初めましての人たちとも笑顔になれちゃう魔法のような場所でした。そうかこういう交流の形（場所）がこれから必要なものなんだと気付けたことが1番の収穫です。

交流や出会いについて言及した感想が多い。同じ関心を持つ仲間と出会い、一緒に活動できる場に参加できたことについての満足感が大きいことが伺える。コミュニティコンポスト&菜園活動を持続させていくには、安心して楽しく活動できるコミュニティ作りが極めて大事であることがわかる。人材育成制度のカリキュラムにおいても、この点を重視していく必要がある。

まとめと今後の活動方針

調査結果から、コミュニティ菜園&コンポストは、有機資源の循環を実現し、また、地域に多世代の交流を生み出す場として有意義であることがわかった。

こうした場所が地域にあれば、防災拠点、農業ファン増加、土壌や循環についての教育の場、農福連携拠点などの機能も果たすことができ、「人與人」「人と農」をつなぐ、意義ある場になることが期待できる。

今後、新たなパブリックスペースとしてコミュニティ菜園&コンポストを全国に増やして行くには、以下のことが必要になる。

- ①土地の確保（行政のサポートが大きな力となる）
- ②人材育成（企画・調整・運営ができる人材の育成講座や認証制度）
- ③菜園が果たす役割を広く社会に知らせる活動（先駆的な活動からの情報発信など）

コンポスト東京では、こうした人材を育成するカリキュラム作りを進め、2026年度から育成講座を開講する準備を始めている。また、原宿はらっぱファームでの知見を広く社会に共有するため、報告会や講座開催、ウェブコンテンツ・冊子発行などを進めている。

この2点を両輪として、今後、本格的にコミュニティ菜園&コンポストの普及に取り組んでいく。